

研究業績目録

池田光穂

2019年1月30日現在

=====
1. 著作
=====

- 1) 『医療と神々』(宗田一監修), 平凡社, 278pp, 1989年1月
- 2) 「マラリア対策」『職種別技術用語集:保健・衛生部門』(英語版)共著, 国際協力事業団青年海外協力隊事務局編, pp.247-268, 青年海外協力隊事務局, 東京, 1990年3月
- 3) 「公衆衛生・マラリア対策」『職種別技術用語集:保健・衛生部門』(スペイン語版)共著, 国際協力事業団青年海外協力隊事務局編, pp.137-154, pp.161-170, 青年海外協力隊事務局, 1991年3月
- 4) メソアメリカ社会における医療人類学的課題——下痢性疾患を事例として, 国際シンポジウム報告書『古代マヤ文明と幻覚剤』[共著], pp.53-72, 和歌山大学, 1991年3月
- 5) フィクショナル・ツーリズム——虚構と現実の旅の文化比較, 『21世紀とツーリズム——ヒューマンルネッサンス・ツーリズム・リゾート』[共著], pp.167-192, ヒューマンルネッサンス研究所, 1991年5月
- 6) 「西洋の医学と医療の歴史」「現代の医療制度」, 『医療概論』(中川米造監修)[共著], pp.6-20, pp.83-90, 医歯薬出版, 1991年7月
- 7) “治療”の文化的構成——生駒における行者と信者, 『宗教学と医療』黒岩卓夫編[共著](講座「医療と人間を考える」第2巻) pp.8-36, 弘文堂, 1991年10月
- 8) 「社会的な問題行動」『医学と医療の行動科学』(河野友信編)[共著], 第VI章・第3節, 朝倉書店, pp.149-151, 1991年10月
- 9) コミュニティ参加の医療と共同体——中央アメリカ・ホンジュラス共和国の事例から, 『人類学と医療』波平恵美子編[共著](講座「医療と人間を考える」第4巻), pp.7-43, 弘文堂, 1992年3月

- 10) 「生駒の行者像」試論, 平成2・3年度文部省科学研究費・総合A「現代日本におけるネットワークの研究」(代表者: 塩原勉) 補助金研究成果報告書『宗教行動と社会的現ネットワーク』所収 [共著], pp.249-267, 1992年3月
- 11) 『文化現象としての医療』(医療人類学研究会編) [共著] (責任編集者: 池田光穂), メディカ出版, 1992年4月
(以下担当箇所) 「カニバリズム」「逸脱」「邪視」「世界保健機関」「漢方」「オーベンとネーベン」「文化結合症候群」「寛解」「医療人類学」「エルステ」「シャーマン」「多元的医療体系」「民族誌」「文化としての月経」「臨床におけるリアリティ」「身体化」「新宗教における癒し」「文化相対主義」「社会生物学論争」「擬娩」「スティグマ」「病気と疾病」「血液型」「医療化」「副作用」「二重盲験試験」「ロイヤル・タッチ」「ノーマライゼーション」「気功」「手あて」「患者の権利」「過労死」「倫理委員会」「参与観察」「奇形」「死体解剖」
- 12) リードオピニオン「わたくしの伊丹『陰翳禮讃』考」, コラム「ワールドアート」「へその象徴論」「サイボーグ都市」「魔性のまち」ほか討論, 『新・撰津風土記—撰津文化圏と伊丹』(伊丹都市政策研究所編) [共著], 伊丹市, 1992年10月
- 13) 近代病院のなかの伝統的「死」—末期患者と構造化されたパターンリズム(第2章), 『事例を中心としたターミナルケア』(四元和代・川口麗子編) [共著], 廣川書店, pp.11-26, 1993年3月
- 14) 『みんなのためのPHC入門』(松田正己・島内憲夫編) [共著], 垣内出版, (担当箇所: 第三世界のプライマリヘルスケアとその社会的背景, pp.108-111), 1993年4月
- 15) 『「新しい旅」のはじまり』 [共著] 高田公理・石森秀三編, PHP出版, (担当箇所: フィクショナル・ツーリズム—虚構と現実の旅の文化比較, 身体感覚の観光学, エコツーリズムと黄金の卵, pp.117-156, 現代人にとって旅とはなにか(総合討論) pp.187-265), 1993年9月
- 16) 『世界史を読む事典』 [共著] 朝日新聞社編, 朝日新聞社, (担当箇所: 出産, pp.223-228), 1994年1月
- 17) 『生活文化論』 [共著] 河合利光編, 健帛社, (担当箇所: 第3章3節, pp.136-160), 1995年1月

- 18) 『現代人類学を学ぶ人のために』[共著] 米山俊直編, 世界思想社, (担当箇所: 10. 苦悩と神経の医療人類学, pp.205-221), 1995年3月
- 19) 『現代医療の社会学』[共著] 黒田浩一郎編, 世界思想社, (担当箇所: 第9章非西洋医療, pp.202-224; 第12章健康ブーム (佐藤純一との共著), pp.263-278), 1995年4月
- 20) 『移動の民族誌』[共著] 岩波書店 (担当箇所「コスタリカのエコ・ツーリズム」), 岩波講座・文化人類学・第7巻, pp.61-93, 1996年11月
- 21) 『観光の二〇世紀』[共著] 石森秀三編, ドメス出版, (担当箇所「遺跡観光の光と影——マヤ遺跡を中心に」および総合討論), pp.193-206, 1996年12月
- 22) 『観光学辞典』[共著] 長谷政弘編, 同文館出版 (担当箇所「健康観光」(p.8), 「虚構観光」(p.10), 「タラソセラピー」(p.68), 「生態系」(p.128), 「エコロジスト」(p.129), 「環境主義」(p.129)), 1997年12月
- 23) 『人類の未来と開発』[共著] (担当箇所「保健活動——制度的海外ボランティアの過去・現在・未来」) 川田順造ほか編, 岩波講座・開発と文化・第7巻, pp.107-114, 1998年4月
- 24) 『世界民族遊戯事典』[共著] 大修館書店 (担当箇所「ホンジュラス」) 大林太良ほか編, pp.530-533, 1998年7月
- 25) 『日本の広告における健康言説の構築分析』[編著] 平成10年度吉田秀雄記念事業財団研究助成報告書 (担当箇所「レジュメ」p.ii, 第1章「序論」pp.1-7, 第4章「健康言説の作用形態」pp.73-79, 第7章「結論」pp.112-121), 121pp., 1999年3月
- 26) 『保健医療行動科学事典』[共著] 日本保健医療行動科学会監修, メヂカルフレンド社 (担当箇所「医療的多元論」(p.29), 「象徴的相互作用論」(p.164)), 1999年9月
- 27) 『医療社会学を学ぶ人のために』[共著] 黒田浩一郎・進藤雄三編, 世界思想社 (担当箇所「世界医療システム——その理論的概観」), pp.237-255, 1999年10月
- 28) 『生活の地域史』(地域の世界史シリーズ, 第8巻)[共著] 川田順造・石毛直道編, 山川出版社 (担当箇所第3部第1章「病気の文明史」), pp.258-289, 2000年3月
- 29) 『健康論の誘惑』[共著] 野村一夫編, 文化書房博文社 (担当箇所: 第4章「健康は普遍

のか?—多元的医療を考える」、第6章「健康言説の政治解剖学—構築分析から因果論批判へ」), Pp.147-166, Pp.185-202, 2000年10月

30) 『文化現象としての癒し』[共著] 佐藤純一編、メディカ出版(担当箇所: 第5章「癒し論」の文化解剖学」、第6章「心霊治療」におけるトリックとモラル」), Pp.185-209, Pp.211-246, 2000年12月

31) 『実践の医療人類学—中央アメリカ・ヘルスケアシステムにおける医療の地政学的展開』世界思想社、390pp., 2001年3月

32) 『エスノグラフィーガイドブック』[共著] 松田素二・川田牧人編、嵯峨野書院(担当箇所: 「野の医療: 牧畜民チャムスの身体世界」) Pp.70-74, 2002年1月

33) 『情報学事典』[共著] 北岡高嗣ほか編、弘文堂(担当箇所「医療人類学」「医療的多元論」「実践共同体」), p.69, Pp.69-70, p.396, 2002年6月

34) 『日常実践のエスノグラフィー——語り・コミュニティ・アイデンティティ』[共著] 田辺繁治・松田素二編、世界思想社(担当箇所: 第6章「外科医のユートピア——技術の修練を通してのモラルリティの探究」), Pp.168-190, 2002年9月

35) 『病気と健康の日常的概念に関する実証的研究』[編著] 平成11年度~平成13年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)) 研究成果報告書(課題番号 11470501)、熊本大学文学部(担当箇所: はしがき(3pp.)、「健康と病気の日常的概念について」 Pp.1-11、「近代日本における未完のプロジェクト: 帝国医療に関する覚書」 Pp.111-116)、2003年3月

36) 『文化人類学のフロンティア』[共著] 綾部恒雄編、ミネルヴァ書房(担当箇所: 第7章「身体を考える—医療人類学における身体構築と実践—」), Pp.186-213、2003年4月

37) 『新しい医療を拓く』[共著] 藤原研司編、医学書院(担当箇所: 「医療人類学の視点から」 Pp.142-150) 2003年10月

38) 『マヤ学を学ぶ人のために』[共著] 八杉佳穂編、世界思想社(担当箇所: 第9章「マヤ医学——文化人類学的研究」) Pp.188-205、2004年10月

39) 『文化人類学文献事典』[共著] 小松和彦・田中雅一・谷泰・原毅彦・渡辺公三編、弘文堂(担当箇所: 「池田光穂: 実践の医療人類学」 p.16, 「フォスターとアンダーソン: 医療人

類学」p.180,「大貫恵美子：日本人の病気観」pp.363-4,「ラビノー：PCRの誕生」p.257,「カーマック編：暴力の収獲」p.386,「リヴァーズ：医療・呪術・宗教」p.258,「トピック：非西洋医療モデルとしての体液理論、熱／冷理論」pp.819-20)、2004年12月

40)『宗教人類学入門』[共著] 関一敏・大塚和夫編、弘文堂(担当箇所：第二部第五章「病む」) Pp.160-175、2004年12月

41)『メイキング人類学』[共著] 太田好信・浜本満編、世界思想社(担当箇所：「民族誌のメイキングとリメイキング：マーガレット・ミードがサモアで見いだしたものの行方」 Pp.113-135)、2005年3月

42)『水俣からの想像力：問い続ける水俣病』丸山定巳・田口宏昭・田中雄次編、熊本出版文化会館(担当箇所：「水俣が私に出会ったとき：社会的関与と視覚表象」 Pp.123-146)、2005年3月

43)『中米地域先住民族への協力のあり方』[編著] 平成16年度独立行政法人国際協力機構客員研究員報告書、独立行政法人国際協力機構・国際協力総合研修所(担当箇所：1. はじめに [池田光穂]、2. 中米先住民の時空間 [池田光穂・木下雅夫]、3-2 グアテマラ [池田光穂]、3-3 ホンジュラス・エルサルバドル・ニカラグア・コスタリカ・パナマ [木下雅夫・池田光穂]、4-2 グアテマラ・ホンジュラス・エルサルバドル・ニカラグア・コスタリカ・パナマ [木下雅夫・池田光穂]、4-3 まとめ [池田光穂]、5-2 グアテマラ・ホンジュラス・エルサルバドル・ニカラグア・コスタリカ・パナマ [池田光穂]、5-3 まとめ [池田光穂]、6-1 持続的開発と大型プロジェクト [木下雅夫・池田光穂]、6-2 パナマ先住民族に対する支援と開発ニーズ [池田光穂]、6-3 貧困問題の解法 [池田光穂・小泉潤二]、6-4 まとめ [池田光穂]、7. 中米先住民族に対する支援と開発のニーズ [鈴木紀・池田光穂]、8-3 先住民族への協力の未来に向けて [池田光穂・木下雅夫]、8-4 まとめ [池田光穂]、コラム(1) 文化人類学とは?、コラム(2) フィールドワークとは?、コラム(3) 民族誌とは?、コラム(4) 人類学とは?、コラム(5) 文化とは?、コラム(6) 人種とは?、コラム(7) 民族とは?、コラム(8) 文化相対主義、コラム(9) 先住民の世界)、2006年1月

44)『価値の多元化状況における保健システムの変貌』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書(研究代表者：池田光穂)、平成19(2007)年3月

45)『医療人類学のレッスン：病いをめぐる文化を探る』[編著] 池田光穂・奥野克巳編、学

陽書房(担当箇所: Lesson 1「医療人類学の可能性: 健康の未来とは何か?」Pp.1-30、Lesson 3「呪術: 理不尽な闇あるいはリアリティか?」(奥野克巳と共著) Pp.55-75、Lesson 10「心と社会: 狂気をどのように捉えればいいのか?」 Pp.219-241、Lesson 11「今日における健康問題: なぜある人びとは病気にかからないのか?」 Pp.242-257) 268pp.、2007年10月

46) 『生命倫理と医療倫理(改訂2版)』[共著] 伏木信次・檉則章・霜田求編、金芳堂(担当箇所: 第21章「医療人類学」 Pp.217-224) 245pp.、2008年3月

47) 『先住民の文化顕示における土着性の主張と植民国家の変容』平成17年度~平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(B)) 研究成果報告書(研究代表者: 太田好信)、(担当箇所: 池田光穂「グアテマラ社会における先住民表象のダイナミズム」 Pp.89-116) 平成20(2008)年5月

48) 『実験室における社会実践の民族誌学的研究』平成18年度~平成19年度科学研究費補助金(萌芽研究) 研究成果報告書(研究代表者: 池田光穂、課題番号: 18650259)、平成20(2008)年5月

49) 『文化人類学事典』[共著] 日本文化人類学会編、丸善(担当箇所: 「健康ブーム」 Pp.30-31、「医療と癒し」 Pp.388-389、「オカルトと癒し」 Pp.390-391) 833pp.、平成21(2009)1月

50) 『看護人類学入門』[単著] 265pp.、文化書房博文社、2010年4月

51) 『認知症ケアの創造: その人らしさの看護へ』池田光穂・阿保順子編[共著] 雲母書房、(担当箇所: 共編者、「第三章認知症の医療人類学」 Pp.49-70、「第4章老いのパラドックス」 Pp.73-95、「第7章ぼけの復権をめざして」 Pp.151-173)、205pp.、2010年12月

52) 『国際ボランティア論』内海成治・中村安秀編、ナカニシヤ書店、(担当箇所: 「国際ボランティアと学び」 Pp.26-40) 186pp.、2011年4月

53) 『人と動物、駆け引きの民族誌』奥野克巳編、はる書房、(担当箇所: 「第7章エピクロスの末裔たち: 実験動物と研究者の「駆け引き」について」 Pp.237-274) 274pp.、2011年9月30日

54) 『コンフリクトと移民』池田光穂編、大阪大学出版会、(担当箇所: 「序論コンフリクトと移民: 新しい研究の射程」 Pp.3-30、「第2章外国人労働・構造的暴力・トナンスナショナ

- リテイ」Pp.49-74、「第11章「コンフリクトと移民」を考えるブックガイド」Pp.303-335) 339pp.、2012年3月30日
- 55) 『医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方』外国人医療カンファレンス編、NPO 法人多文化共生センターきょうと (担当箇所:「患者の文化・宗教」p8、87pp.、2012年3月30日
- 56) 『人と動物の人類学』奥野克巳・山口未花子・近藤祉秋編、春風社 (担当箇所:第7章「野生動物とのつきあい方:生物多様性保全におけるツキノワグマとジュゴンの位相」Pp.205-238) 363pp.、2012年9月19日
- 57) 『医療情報』(シリーズ生命倫理学第16巻)板井孝太郎・村岡潔編、丸善出版 (担当箇所:第12章「ヘルスコミュニケーションの生命倫理学」Pp.234-256) 260pp.、2013年9月30日
- 58) 『生命倫理と医療倫理 (改訂3版)』[共著]伏木信次・檜則章・霜田求編、金芳堂 (担当箇所:第21章「医療人類学」Pp.224-233) 255pp.、2014年3月25日
- 59) 『世界民族百科事典』[共著]国立民族学博物館編、丸善 (担当箇所:「病気観と身体観」Pp.686-687;「民族表象と運動」Pp.738-739)、816pp.、2014年7月
- 60) To See Once More the Stars. Naito, D, R. Sayre, H. Swanson & S. Takahashi (eds.), Santa Cruz, CA.: New Pacific Press, 259+262pp., 2014. (担当箇所:「記憶:フクシマから遠く離れて Loin du Fukushima」Pp.21-23: MEMORY: Loin du Fukushima, Pp.22-24.)
- 61) 『動物殺しの民族誌』シンジルト・奥野克巳編、昭和堂 (担当箇所:池田光穂「子殺しと棄老:「動物殺し」としての殺人の解釈と理解について」Pp.57-97) 365pp. + ix、2016年10月
- 62) 『ワールドシネマ・スタディーズ:世界の「いま」を映画から考えよう』小長谷有紀・鈴木紀・旦匡子編、勉誠出版 (担当箇所:池田光穂「親と子そしてキョウダイを結びつけるものは何か?」Pp.166-172)、296pp.、2016年11月
- 63) 『対話で創るこれからの「大学」』大阪大学 CO デザインセンター監修、大阪大学出版会 (担当箇所:小笠原舞・小竹めぐみ・池田光穂の鼎談「学びが「生まれる場」のつくり方」Pp.49-69)、213pp.、2017年9月

64) 『全地球学』松井孝典監修、ウェッジ (担当箇所: 池田光穂「医療人類学が問いかけるもの: 社会現象としての医療」 Pp.378-379)、511pp., 2018年3月

65) 『はじめてまなぶ文化人類学: 人物・古典・名著からの誘い』岸上伸啓編、ミネルヴァ書房 (担当箇所: 「メアリー・ダグラス」 Pp.173-178; 「マーガレット・ロック」 Pp.245-250)、317pp., 2018年3月

66) 『交錯する世界・自然と文化の脱構築: フィリップ・デスコラとの対話』秋道智彌編、京都大学学術出版会 (担当箇所「実験動物と神経生理学における『自然』について」 Pp.221-246)、432pp., 2018年3月

=====

2. 論文

=====

1) 医学史研究と医療人類学—医療人類学概説, 医学史研究, No.55, p.19-27, 1981年12月

2) 民間医療の医療人類学的研究—都市における信仰治療行動の事例, 大阪大学大学院医学研究科医科学修士論文, 1982年3月

3) 治療儀礼の研究—仏教寺院の事例から, 医学史研究, No.56, p.36-46, 1982年12月

4) "Topographic analysis of the redox state of rat brain by NADH florescence photography of cross sections" (共著), (T.Ishikawa, M.Tamura, S.Nakamura, M.Ikeda, K.Nagai), J.Biochem, 95,213-221, 1984年10月

5) 中米ホンジュラス国の媒介動物病対策, 公衆衛生, Vol.49, p.701-704, 1985年10月

6) "Sinopsis breve de la antropologia medica", (医療人類学概略), Division de Control de Vectores, Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social (ホンジュラス保健省媒介動物対策局), pp.24, 1985年6月

7) "Sinopsis breve de la antropología medica: Edition Revisada" (医療人類学概略: 改訂版), Division de Control de Vectores, Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social (ホンジュラス保健省媒介動物対策局), pp.11+4, 1987年8月

- 8)"Primer informe provisional del proyecto para investigacion antropologica medica en el Departamento de Copan ",(コパン県医療人類学調査予備報告書),Division de Epidemiologia, Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social (ホンジュラス保健省疫学局) ,25pp,1985 年 9 月
- 9)"La discusion del hecho medico en la zona rural del Departamento de Copan", (コパン県村落地域の医療行動論) ,Division de Epidemiologia, Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social (ホンジュラス保健省疫学局) ,54pp,1986 年 8 月
- 10)"Notas sobre la cultura alimenticia en el Departamento de Copan", (コパン県の食文化についての覚書) ,Division de Epidemiologia, Ministerio de Salud Publica y Asistencia Social (ホンジュラス保健省疫学局) ,16pp,1987 年 2 月
- 11)生駒の呪術師—医療人類学的アプローチ, ライフサイエンス, 14 巻 10 号, pp.49-53,1987 年 10 月
- 12)医療人類学と「コミットメント」, からだの科学, No.139, pp.109-113, 1988 年 3 月
- 13)医療システムと合理性について, 関西鍼灸短期大学年報, 第 4 号, pp.5-10,1988 年 4 月
- 14)グアテマラ共和国の医療の現状, トヨタ財団 1986 年度研究助成中間報告書 (86-I-012) 所収, 16pp., 1988 年 5 月
- 15)ある現代メスティーソ社会の「医療」についての記述, 医学史研究, 62 号, pp.27-36, 1988 年 12 月
- 16)ホンジュラス農村の医療事情—自己投薬行為を中心に, 公衆衛生, Vol.53,No.2, pp.208-212, 1989 年 2 月
- 17)健康の概念が伝えられる時—文化のブローカーとしての保健普及員, メディカルビューマニティ, 4 巻 1 号, pp.90-95, 1989 年 3 月
- 18)第三世界のプライマリーヘルスケア戦略とその背景にあるもの, 医療人類学, 2 巻 3 号, p.5, 1989 年 5 月

- 19) 中央アメリカの多元的医療システム, 日本保健医療行動科学会年報, Vol.4, pp.210-228, 1989年6月
- 20) 伝統医療と近代医療が会うとき—「医療」の二元論再考, メディカルヒューマニティ, 4巻2号, pp.24-31, 1989年7月
- 21) いま, なぜ民間療法か?, 思想の科学, No.121, 1989年10月号, pp.14-20, 1989年10月
- 22) 「苦悩を表現すること」の意味—ネルビオスとラテンアメリカ社会, からだの科学, 151号, pp.18-23, 1990年3月
- 23) 身体論のアラベスク—身体を語ること, についての覚書, 関西鍼灸短期大学年報, 第5号, pp.64-78, 1990年4月
- 24) ヘルス・プロモーションとヘルス・イデオロギー—中央アメリカ村落の事例による検証, 日本保健医療行動科学会年報 1990, Vol.5, pp.185-201, 1990年6月
- 25) 人工SEX時代の出産学, 婦人公論, 1990年7月号, pp.276-283, 1990年7月
- 26) 身体観と臓器移植—受け入れる思想と拒む思想について, メディカルヒューマニティ, 5巻2号, pp.77-81, 1990年8月
- 27) エイズの医療人類学的研究の動向, 医療人類学, 3巻3号, p.8, 1990年9月
- 28) 中央アメリカの人びとの仕事・生きがい・ライフスタイル—異文化比較を通して考える日本人の健康観, ライフサイエンス, 17巻9号, pp.16-23, 1990年9月
- 29) 日本人にみられる「禁忌の健康観」, 教育と医学, 1990年10月号(38巻10号), pp.13-19 (pp.907-913), 1990年10月
- 30) 脳死と移植論争における「文化」, 医療人類学, 第3巻6号, p.6, 1991年3月
- 31) メスティーソ村落農民の食生活, 関西鍼灸短期大学年報(1990), 第6号, pp.45-61, 1991年4月

- 32)病院の社会的・文化的記述—方法論としての”病院の民族誌”, からだの科学, 161号, pp.26-31, 1991年9月
- 33)外科医の社会化と儀礼(共著:池田光穂, 佐藤純一), メディカルヒューマニティ, 第5巻4号, pp.90-97, 1991年10月
- 34)痛みと人間—人類は痛みに対してどう対処してきたか?, 看護技術, 第38巻2号, pp.6-9, 1992年1月
- 35)医療観光論序説—健康を希求する旅のゆくえ, 中央公論, 1992年7月号, pp.251-256, 1992年7月
- 36)清浄と汚穢—現代人の清潔意識のフォークロア, 看護技術, 第38巻10号, pp.6-9, 1992年7月
- 37)想像力観光への招待—フィクショナル・ツーリズムと<他者>理解, 中央公論, 1992年10月号, pp.314-320, 1992年10月
- 38)<排泄>現象の文化的考察, 看護技術, 第38巻14号, pp.6-9, 1992年10月
- 39)医療援助される側の論理—中米ホンジュラスの事例検討, メディカル・ヒューマニティ, 22号, pp.57-62, 1993年3月
- 40)エコツーリズムの四つの顔, アドバタイジング, No.441, pp.24-27, 1993年4月
- 41)商品としての”自然”と”文化”—エコツーリズムと中央アメリカ, 中央公論, 1993年5月号, pp.296-302, 1993年5月
- 42)「ディアレア」と「クルソ」のあいだ:ホンジュラス・メスティーソ農民と下痢性疾患, 東日本学園大学基礎教育部論集, 19号, pp.93-106, 1993年6月
- 43)観光現象研究のパラダイム転換, 日本旅行業協会主催研究会報告書, (財)日本旅行業協会(JATA), pp.90-98, 1993年5月
- 44)心霊治療においてモラルを問うこと——その批判・擁護・解釈, 北海道医療大学基礎教育部論集, 20号, pp.25-43, 1994年6月

- 45)文化に埋め込まれた死——人類学者の諸見解, ターミナルケア, Vol.4, No.4, pp.316-320, 1994年7月
- 46)中央アメリカにおける新しい観光の動向, 文学部論叢(地域科学編), 第48号, pp.37-46, 熊本大学文学会, 1995年2月
- 47)「健康の開発」史——医療援助と応用人類学, 文学部論叢(地域科学編), 第49号, pp.41-72, 熊本大学文学会, 1996年2月
- 48)イルカ・ウォッチングと現代社会——エコ・ツーリズム研究ノート, 『国際統合の進展のなかの「地域」に関する学際的研究』熊本大学人文社会科学系大学院博士課程設置委員会プロジェクト研究部会編, pp.497-515, 熊本大学文学部・法学部, 1996年3月
- 49) Epidemiology and Cultural Anthropology: Their Possible Collaboration. In "Ethnoepidemiology of Cancer," Tajima, Kazuo and Shunro Sonoda eds., Gann Monograph on Cancer Research No.44, Pp.79-86, Japanese Cancer Association, Nov.1996.
- 50)医療人類学とその領域——新しい学問はどのようにして専門分化したか, 文学部論叢(地域科学編), 第56号, pp.31-51, 熊本大学文学会, 1997年3月
- 51)痛みの文化人類学, メンタルケア, 第2号, pp.108-114, 日本メンタルケア学会, 1997年4月
- 52)グアテマラ西部高地における経済活動と社会変化に関するノート, 『グアテマラ観光地における文化創造と階級・人種・性差意識変化の民族誌』(平成8年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書)研究代表者・太田好信, 課題番号08041019, 44pp. (ページ数指定なし), 1997年3月
- 53)商品としての民族・文化・定期市——グアテマラ西部高地における民族観光, 市場史研究, 第17号, pp.93-99, 1997年11月
- 54)メディアは我々自身を形づくる——社会意識の産出に関する予備的考察, 『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究(I)』[文部省科学研究費補助金・基盤研究(B)高度メディア社会における社会倫理の実証的研究・課題番号09410015・平成9年度研究成果報告書], 船木亨編, pp.19-30, 熊本大学文学部, 1998年2月

- 55)暴力の内旋—グアテマラ西部高地の先住民共同体と経済—, 文学部論叢(地域科学編), 第60号, pp.59-90, 熊本大学文学会, 1998年3月
- 56)排尿経験の医療人類学, 看護技術, 第44巻3号, pp.9-12, 1998年3月
- 57)フィールド・ライフ—熱帯生態学者たちの微小社会活動に関する調査の概要—, 熊本大学文化人類学調査報告, 第2号, pp.97-135, 熊本大学文学部文化表象学教室, 1998年3月
- 58)病気と健康の日常的概念の構築主義的理解(共著:池田光穂, 野村一夫, 佐藤純一), 健康文化(第4回平成8年度研究助成論文集), No.3, pp.21-30, 明治生命厚生事業団, 1998年3月
- 59)大学における文化人類学教育をどう活性化するか—専門学徒への提言—, 大学教育(熊本大学大学教育研究センター)第1号, pp.20-25, 1998年3月
- 60)Eco-Tourism, Exploitation and the Cultural Production of the Natural Environment in Costa Rica. ラテンアメリカ学会研究年報, 第18号, pp.77-104, 1998年6月
- 61)身体を鑄込みなおす—身体構築に関する社会倫理の探究—, 『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究(II)』[文部省科学研究費補助金・基盤研究(B)高度メディア社会における社会倫理の実証的研究・課題番号09410015・平成10年度研究成果報告書], 船木亨編, pp.29-42, 熊本大学文学部, 1999年2月
- 62)日本の広告における健康言説の構築分析, 『平成10年度(第32次)助成研究集(要旨)』, pp.35-46, 吉田秀雄記念事業財団, 1999年6月
- 63)「医療と文化」再考—グアテマラにおける医療人類学の再想像—, 思想, 2000年2月号(No.908), pp.199-218, 岩波書店, 2000年2月
- 64)外科的想像力—技術の修練に関する覚書—, 文学部論叢(地域科学編), 第68号, pp.87-106, 熊本大学文学会, 2000年3月
- 65)チュチカハウの肖像—モモステナンゴのシャーマン—司祭に関する民族誌学的覚書—, 『都市化環境における実践コミュニティの人類学的研究』平成10・11年度文部省科学研究費補助金(研究代表者・田辺繁治)成果報告書所収, ページ指定なし, 18pp., 平成12(2000)

年 3 月

66) Ethos, Community, and Violence: a Guatemalan highland community and global economy. ラテンアメリカ学会研究年報 (Anales de Estudios Latinoamericanos), 第 20 号, pp.89-119, 2000 年 6 月

67) エコ・ツーリストと熱帯生態学、『熱帯林における生物多様性の保全と利用』(JCAS 連携研究成果報告書 3)、Pp.163-182、国立民族学博物館地域研究企画交流センター、2000 年 7 月

68) 物神化する文化——文化遺産のグローバルな流通について、『三田社会学』, 第 5 号, Pp.17-28, 三田社会学会、2000 年 7 月

69) サイバーパンクにおいて倫理は可能か?、『高度メディア社会における社会倫理の実証的研究』[文部省科学研究費補助金・基盤研究 (B) 高度メディア社会における社会倫理の実証的研究・課題番号 09410015・平成 11 年度研究成果報告書], 大杉佳弘編, Pp.85-93、熊本大学文学部、2000 年 12 月

70) チュチカハウの肖像—マヤ系先住民の祭司にかんする民族誌的覚書 (I) —、『文学部論叢 (地域科学編)』, 第 72 号, Pp.1-15, 熊本大学文学部、2001 年 3 月

71) 「医療と文化」について考える、『教育と医学』, 第 49 卷 8 号 (2001 年 8 月), Pp.34-40, 2001 年 8 月

72) 医療人類学と国際保健、『大阪保険医雑誌』, 通巻 414 号 (2001 年 8 月), Pp.10-12, 2001 年 8 月

73) 書評 [書評論文]: 白川千尋『カスタム・メレシ—オセアニア民間医療の人類学的研究—』風響社、2001 年、『アジア経済』43(7):70-77, 2002 年 7 月

74) 政治的暴力と人類学を考える——グアテマラの現在——、『社会人類学年報』, 第 28 卷, Pp.27-54, 2002 年 8 月

75) 民族医療の再検討、『民族学研究』, 第 67 卷 3 号, Pp.245-248, 2002 年 12 月

76) 民族医療の領有について、『民族学研究』, 第 67 卷 3 号, Pp.309-325, 2002 年 12 月

- 77) ダーウィン『ビーグル号航海記』におけるフィールドワーク、『文学部論叢』, 第77号, Pp.45-71, 熊本大学文学会, 2003年3月
- 78) 帝国医療の予感——その修辞上の戦略——、『九州人類学会報』, 第30号, Pp.119-122、九州人類学研究会、2003年7月
- 79) コスモポリタン再考——医術と統治術のはざままで——、『経済学雑誌』, 第104巻2号、Pp.22-36、大阪市立大学経済学会、2003年9月
- 80) 疫学と文化人類学——その共同の可能性——、『熊本文化人類学』, 第3号, Pp.76-81, 2004年1月
- 81) 移民・難民・人類学者——グローバリゼーションとグアテマラ、『トランスナショナルリティ研究：境界の生産性』 Pp.115-128、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」報告書、大阪大学文学研究科・人間科学研究科・言語文化研究科、2004年3月
- 82) 病気と人生：もうひとつの文化人類学、『文明のクロスロード Museum Kyushu』第20巻3号（通巻77号）、Pp.27-31、2004年3月
- 83) 感染し爆発する〈意味〉：感染症の文化的取扱い方について、『科学』Vol.74, No.8（2004年8月号）、Pp.970-974、岩波書店、2004年8月
- 84) 医療人類学の立場からみた保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究、『平成15年度厚生労働省国際医療協力研究委託費・研究報告集』、Pp.349-350、国立国際医療センター、2004年10月
- 85) 経済開発の寓話：グアテマラ・クチュマタン高原のコミュニティからの通信、『文学部論叢（地域科学篇）』第85号、Pp.45-67、2005年3月
- 86) ファントム・メディスン：帝国医療の定義をめぐるエッセイ、『熊本文化人類学』第4号、Pp.93-98、2005年3月
- 87) グローバル化する近代医療と民族医療の再検討：研究史における私的メモワール、『平成14～平成16年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(1)研究成果報告書・グローバル化する

近代医療と民族医学の再検討』(研究代表者:奥野克巳・桜美林大学国際学部助教授) Pp.23-38、2005年3月

88) 「持続可能性」の意味:医療人類学からみた保健医療プロジェクトの持続可能性に関する学際研究、『インドネシア母子保健手帳プログラムに関する学際的調査報告書』国立国際医療センター・国際医療協力研究委託費・保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究、Pp.42-59、大阪大学人間科学研究科ボランティア人間学講座、2005年8月

89) 「医療人類学の立場からみた保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際研究」『平成16年度厚生労働省国際医療研究委託費・研究報告集』Pp.239-240、国立国際医療センター、2005年10月

90) グローバルポリティクス時代におけるボランティア:〈メタ帝国医療〉としての保健医療協力、『地域研究』第7巻第2号、Pp.169-182、地域研究企画交流センター、2006年2月

91) ホンジュラス調査から私が学んだもの:医療人類学からみた保健医療プロジェクトの持続可能性に関する学際研究、『ホンジュラス リプロダクティブヘルス向上プロジェクトに関する学術調査報告書』国立国際医療センター・国際医療協力研究委託費・保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究、Pp.66-74、大阪大学人間科学研究科ボランティア人間学教室、2006年3月

92) 国民国家概念がさほど有効ではなくなった今日において、私たちは“国”際保健医療協力の持続可能性に何を期待することができるのか:その学際研究の可能性についての諸考察、『保健医療プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究』平成15~17年度厚生労働省・国際医療協力研究委託事業(15公1)研究成果報告書、Pp.95-106、大阪大学人間科学研究科ボランティア人間学講座、2006年3月

93) Reflexiones sobre la violencia política y la antropología:la actualidad guatemalteca. "Mundo maya: Contribuciones de los antropólogos japoneses," Centro de Estudios Mayas, UNAM (メキシコ自治大学マヤ研究センター) Kazuyasu Ochiai(coord.), pp.179-210, Mérida: Universidad Nacional Autónoma de México. 2006.

94) 〈現場力〉について:言葉による概念の受肉化、『臨床と対話』中岡成文編、大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」研究報告2004-2006・第8巻、Pp.27-41、2007年1月

- 95) コミュニケーション不全の活用法、『Communication-Design』2006、Pp.27-33、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、2007年3月
- 96) 伝わる言葉／伝わらない言葉：臨床コミュニケーション教育の経験から得たもの(1)、電子情報通信学会技術研究報告(略称『信学技報』IEICE Technical Report)、HCS2007-47～62 [ヒューマンコミュニケーション基礎]、Pp.19-23、2007年11月
- 97) ものづくり・創造性教育のためのPBL入門：医学教育の先行事例から学ぶ、『第6回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム 講演アブストラクト集』Pp.9-22、大阪大学工学部／大学院工学研究科創造工学センター、2008年11月26日
- 98) 臨床概念の再検討、『サイエンスショップにおける臨床研究の可能性に関する基礎研究：日本における社会的・倫理的課題の検討』第16回ファイザーヘルスリサーチ助成財団研究成果報告書(研究代表者；西村ユミ)、(担当箇所：Pp.56-66)、平成21(2009)年4月
- 99) 臨床コミュニケーション教育における発話と実践の対話的関連性について、[池田光穂、西村ユミ] 電子情報通信学会技術研究報告(略称『信学技報』IEICE Technical Report)、HCS2009-6, HIP2009-6, WIT2009-6(2009-05), Pp.23-28、2009年5月
- 100) サイエンスショップにおける臨床研究の可能性：市民の声から協働のあり方を探る、[西村ユミ、池田光穂]、電子情報通信学会技術研究報告(略称『信学技報』IEICE Technical Report)、HCS2009-10, HIP2009-10, WIT2009-10(2009-05), Pp.43-48、2009年5月
- 101) “Distorted Medicalization” of Senile Dementia: The Japanese case. [Mitsuho Ikeda & Michael K. Roemer], World Cultural Psychiatry Research Review 2009, 4(1): 22-27, June 2009.
- 102) 医療の不確実性時代におけるコミュニケーション：EBMの人間観批判、『大阪保険医雑誌』第37巻通巻510号(2009年6月号)、Pp.24-26、大阪府保険医協会、2009年6月
- 103) 「文化の翻訳」に資格はいらない：制度的通訳と文化人類学、『こころと文化』(多文化間精神医学会編集)第8巻2号、Pp.139-145、2009年9月
- 104) 実践を生み出す論理の可能性：対話論ノート、『Communication-Design』第3号、Pp.210-224、2010年3月

- 105) ディスコミュニケーションとコミュニケーション支援：その理論的素描、[共著：伊藤京子、西村ユミ]、電子情報通信学会技術研究報告(略称『信学技報』IEICE Technical Report)、HCS2010-5, HIP2010-5(2010-5)、Pp.23-28、2010年5月
- 106) 池田光穂、西村ユミ「臨床コミュニケーション教育：PBLから対話論理へ、対話論理から実践へ」『日本ヘルスコミュニケーション研究会雑誌』第1巻第1号(2010) Pp.48-52. 日本ヘルスコミュニケーション研究会、2010年10月
- 107) 拡張するヘルスコミュニケーションの現場、『保健医療社会学論集』22(2):1-4、2011年9月
- 108) 看護人類学から人類学的看護へ、『日本遺伝看護学会誌』(Journal of Japanese Society of Genetic Nursing, J.Gent.Nurs.Jpn) 10(2):49-59、2012年3月
- 109) ヘルスコミュニケーションをデザインする、『Communication-Design』6号、Pp.1-16、2012年3月
- 110) 「自然」の二重性：神経科学の実験室における動物と研究者、『文化人類学』(日本文化人類学会, ISSN: 1349-0648) 76(4):474-484、2012年4月
- 111) ハゲタカ物語、『臨床精神病理』(日本精神病理・精神療法学会, ISSN: 03893723) 33巻1号、Pp.3-6、2012年4月
- 112) 地方分権における先住民コミュニティの自治：グアテマラ西部高地における事例の考察、『ラテンアメリカ研究年報』(日本ラテンアメリカ学会, ISSN: 02861127) No.32、Pp.1-31、2012年6月 http://www.ajel-jalas.jp/nenpou/back_number/nenpou032/pdf/ikeda2012.pdf
- 113) 情動の文化理論にむけて：「感情」のコミュニケーションデザイン入門、『Communication-Design』8号(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター, ISSN: 1881-8234)、Pp.1-34、2013年3月
- 114) 病気になることの意味：タルコット・パーソンズの病人役割の検討を通して、『Communication-Design』10号(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター, ISSN: 1881-8234)、Pp.1-21、2014年3月

- 115) 科学における認識論的アナキズムについて、『現代思想』42巻12号、Pp.192-203、2014年8月
- 116) 研究不正とどのように向き合うのか? : 実践的審問、『質的心理学フォーラム』6巻、Pp.18-25、2014年9月
- 117) 健康教育における〈健康認識の個人化〉をうながす実践について、(共著: 徐淑子、池田光穂) 『Communication-Design』12, Pp.23-38, 2015年3月31日
- 118) Epicurean Children: On interaction and "communication" between experimental animals and laboratory scientists. (Ikeda, Mitsuho and Michael Berthin), Communication-Design, 12, Pp.53-75, March 31, 2015
- 119) 学部生および大学院生が参加する「よい」相互作用を引き出すコミュニケーションを設計する: それはともかく、君のレクチャーを活気づけるのか? それとも君の学生たちを活気づけるのがいいのか? 『第59回システム制御情報学会研究発表講演会』予稿集、[ハイパーテキスト; ページ数無] 6pp., Osaka May 20-22, 2015
- 120) Sookja Suh and Mitsuho Ikeda, Compassionate Pragmatism on the Harm Reduction Continuum: Expanding the Options for Drug and Alcohol Addiction Treatment in Japan, Communication-Design 13:63-72, 2015.
- 121) コミュニケーションデザイン・テーゼ: 越境する教養力の肝要について、Communication-Design 2005-2015, Pp.58-64, March 31, 2016
- 122) From Where does Our Health Come?: The Sociology of Antonovsky's Salutogenesis. Communication-Design 14:83-93, 2016
- 123) アーロン・アントノフスキーの医療社会学: 健康生成論の誕生, 応用社会学研究, 58:119-130, 2016.
- 124) スピリットは細部に宿り給う: パースペクティヴィズムを通してみた人間=機械状態について, 生存学, Vol.9, Pp.260-273, 2016年3月31日
- 125) 社会的健康とコミュニケーション: 介入をめぐる公衆衛生と倫理について, 保健医療社会学論集, 27(1):62-72, 2016 doi: 10.18918/jshms.27.1_62

- 126) 認知症コミュニケーションの可能性とストレスコーピング、(共著:池田光穂、西川勝、野村亜由美)、日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌、Vol.7, Pp.1-11, 2016年(査読有)
- 127) 学習者から探究者へ:オランダ・マーストリヒト大学におけるPBL教育、(共著:池田光穂・徐淑子)、大阪大学高等教育研究、5:19-29, 2017年(査読有)
info:doi/10.18910/60488
- 128) テキストと方法について:ショロイツクイントゥリを事例にして、Co* Design、1:53-66, 2017年3月(査読無) info:doi/10.18910/60553
- 129) 薬物問題についての最近の動向と大学生を対象とした薬物乱用防止教育(共著:徐淑子・池田光穂)、Co* Design、1:67-84, 2017年3月(査読無) info:doi/10.18910/60554
- 130) オランダにおける薬物使用者へのケア・サポート資源と医療:ハーム・リダクションから離脱・回復志向的実践まで(共著:徐淑子・池田光穂・近藤千春)、日本アルコール関連問題学会雑誌、18(2):59-65. 2017年3月(2016年度)(査読有)
- 131) 政治紛争のなかの先住民コミュニティ:グアテマラ・マヤ系先住民の文化と自治、Co* Design、2:1-16, 2017年9月(査読有) info:doi/10.18910/65077
- 132) 病い研究とポリフォニー:ミハイル・バフチンから刺激をうけて、保健医療社会学論集、28(2):11-19. 2018年2月(査読無) doi:10.18918/jshms.282_11
- 133) 知恵と心に満ちた社会の創り方:イノベーション神話を乗り越えて(共著:春日匠・池田光穂)、Co* Design、3:1-12, 2018年3月(査読有) info:doi/10.18910/67890
- 134) 火星の人類学者たちの社会的包摂について(共著:池田光穂・竹内慶至)、Co* Design、3:13-34, 2018年3月(査読有) info:doi/10.18910/67891

=====

3. 翻訳

=====

- 1) フォスターとアンダーソン『医療人類学』(中川米造監訳:リプロポート)、4, 5, 6章, 1987年1月

2)凍結授精卵を裁く (James Lieber, The Atlantic Monthly, June, '89), T R E N S
(駐日アメリカ大使館広報誌), 19巻6号, p.65-70, 1989年6月

3)できるかエイズワクチン—ポリオ撲滅のパイオニアが挑む (The New York Times Magazine, Once Again; A Man With a Mission), T R E N S (駐日アメリカ大使館広報誌),
21巻3号, p.47-53, 1991年3月

=====

4. 学会研究会発表

=====

1)「医療人類学と医学史研究」第21回医学史研究会総会, 大阪, 1981年12月

2)現代都市日本の民間医療, 第36回日本人類学・民族学会連合大会, 東京, 1982年5月

3)生駒山系における修験信仰, 関西社会学会研究大会, 京都, 1983年5月

4)仏教の治療儀礼—医療人類学の解釈, 谷口財団医学史シンポジウム, 三島市, 1983年8月

5)Sistema medico en Honduras, Asociacion Latinoamericana de la Etnomedicina y Asociacion Guatemalteca de la Antropologia medica, Guatemala, Enero, 1988, (ホンジュラスの医療システム, ラテンアメリカ民族薬学会・グアテマラ医療人類学会大会, グアテマラ市, 1988年1月)

6)中米の村落地域における医療体系—医療的多元化について, 日本保健医療行動科学学会大会, 大阪, 1988年6月

7)医療人類学の多様性と理論をめぐって—socio-cultural な立場から, 第1回医療人類学ワークショップ, 大阪, 医療人類学研究会主催, 1988年9月

8)医療民族誌をめぐって, 第1回医療人類学ワークショップ, 大阪, 医療人類学研究会主催, 1988年9月

9)第三世界の医療・看護・文化, 第1回看護学・医療人類学セミナー「病い・癒しと文化」

大阪, 医療人類学研究会主催, 1988年10月

10)文化のブローカーとしての保健普及員—中米の事例から, シンポジウム「伝統医療の近代化・近代医療の土着化」, 第42回日本人類学会・民族学会連合大会, 大阪, 1988年11月

11)「ネルビオス」という概念—中央アメリカの人々の「こころ」と「からだ」, あるいは身体化の論理, 第4回日本保健医療行動科学学会大会, 東京, 1989年6月25日

12)コメンテーター, シンポジウム「医学概論再考」(中川米造教授大阪大学退任記念行事) 大阪, 1989年7月

13)ネルビオスとラテンアメリカ社会, 中米史研究会(東京大学駒場), 1989年7月29日

14)外科医の社会化と儀礼(共同研究:佐藤純一, 池田光穂), 共同発表「病院の民族誌」第43回日本人類学会・民族学会連合大会, 岡山, 1989年10月22日

15)医療援助と‘開発’理論:中央アメリカの事例から, 第29回医学史研究会総会, 大阪, 1989年11月19日

16)臓器移植と身体観, 公開討論会「移植と脳死」, 九州大学医学部医療情報部・東京大学PRC企画委員会, 福岡, 1989年11月20日

17)中央アメリカにおける保健の政治経済学, 医療経済研究会拡大例会, 大阪, 1989年11月26日

18)問題群としての「臓器移植と脳死」, 第15回脳死シンポジウム, 東京大学PRC企画委員会, 1989年12月

19)コメンテーター, 第1回中川フォーラム・シンポジウム「患者が薬を捨てる時」, 東京, 1990年1月20日

20)ラテンアメリカにおける心身関連疾患について, 心身医学研究会(関西医科大学), 1990年4月7日,

21)問題提起, 分科会1「共感と理解—癒しと人類学における」日本民族学会第26回研究

大会, 大阪, 1990年5月

22)健康の概念の民族誌的検討—中央アメリカにおける事例, 日本保健医療行動科学会第4回大会, 東京, 1990年6月

23)司会, 第2回中川フォーラム・シンポジウム「変貌する医療者のイメージ」, 大阪, 1990年9月

24)メソアメリカ社会における医療人類学的課題—下痢性疾患を事例として, 国際シンポジウム「古代マヤ文明と幻覚剤」, 和歌山大学, 1990年10月14日

25)下痢性疾患の民族誌—中米社会の事例から, 近衛ロンド(京都人類学談話会)研究会, 1991年2月20日

26)中米メスティーソの病気と社会, 国立民族学博物館研究部主催セミナー, 1991年2月27日

27)イメージの中のアマゾン, 共同研究会「アマゾン川流域の生態と文明」, 国立民族学博物館(座長:中牧弘允), 1991年3月12日

28)自己啓発セミナーの民族誌, シンポジウム『行動変容監』, 保健医療行動科学会近畿支部主催, 兵庫医科大学, 1991年5月25日

29)地球環境問題とアマゾン, 共同研究会「アマゾン川流域の生態と文明」総括研究会, 国立民族学博物館(座長:中牧弘允), 1991年6月15日,

30)司会, 第3回中川フォーラム・ワークショップ「差別と医療」, 大阪, 1991年9月1日

31)「治癒」の文化的構成—生駒における行者と信者, シンポジウム「癒し」の原像を求めて, 保健医療行動科学会近畿支部主催, 生命科学振興会大阪事務所, 1991年12月

32)コメンテーター, Anan Ganjanapan, "Changing Power and Positions of Mo Muang in Northern Thai Healing Rituals" および Nimal D. Kasturiaratchi, "Budubalaya: A Power for Buddhist Healer", 共同研究会「上座部仏教における社会と宗教」シンポジウム, 国立民族学博物館研究部(座長:田辺繁治), 1992年3月12日

- 33)「私たちは貧しいから、病気になるのです」—医療協力活動のなかのホンジュラスの人びと, 分科会シンポジウム「国際医療協力と文化人類学—医学と文化人類学は何をどう補いあえるか?」, 日本民族学会第27回研究大会, 南山大学, 1992年5月
- 34)文化の文脈における健康と病気—最近の医療人類学の動向, 日本保健医療行動科学会北海道支部主催研究会, 札幌市医師会館, 1992年7月18日
- 35)心霊治療において倫理は可能か?, バイオエシックス懇話会, 北海道医師会館, 1992年9月25日,
- 36)司会「観光現象の多様性」, 国立民族学博物館共同研究会「観光現象の総合的研究」(座長:石森秀三)1993年3月25日
- 37)司会および話題提供「エコツーリズムの諸相」, シンポジウム「ポストモダンと観光」, 国立民族学博物館共同研究会「観光現象の総合的研究」(座長:石森秀三)1993年3月26日
- 38)医療援助と文化人類学, 重点領域研究・A03 公募班(アジア農村における「開発」の導入と農民の反応)第2回研究会, 北海道大学文学部, 1993年9月6日
- 39)物神化する文化——古代マヤ遺跡と観光客, 国立民族学博物館特別研究「二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容」シンポジウム「観光の二〇世紀」(実行委員長;石森秀三), 1994年10月15日
- 40)表象の戦場から, 分科会シンポジウム「ポストコロニアル批評と文化人類学の再想像」, 日本民族学会第29回研究大会, 大阪大学, 1995年6月3日
- 41)マヤ文明遺跡観光——文化生産と消費の観点から, 分科会「現代社会と遺跡保存」, 日本ラテンアメリカ学会第16回定期大会, 東京大学, 1995年6月18日
- 42)コメンテーター, 分科会シンポジウム「現代日本における伝統の創造——観光をとおして自己表現の研究」(代表者:川森博司), 日本民族学会第30回研究大会, 静岡大学, 1996年5月25日
- 43)文化人類学を教えることの「効用」, 分科会シンポジウム「21世紀をめざす文化人類学専門教育」(代表者:中村光男), 日本民族学会第30回研究大会, 静岡大学, 1996年5月

26日

44) 人はどのようにして医療の思索者になるのか?——中川米造と医療人類学, 中川米造先生古希記念シンポジウム, 山西記念福祉会館: 大阪市, 1996年7月27日

45) グアテマラ西部高地におけるエスニック観光と社会, 日本民族学会第31回研究大会, 国立民族学博物館, 1997年5月22日

46) エコ・ツーリストと熱帯生態学——<自然>のイメージの生産と消費について, 国立民族学博物館・地域科学センターシンポジウム, 1997年12月22・23日

47) 医療人類学研究における共感と理解, 共同研究会「認知と実践」(座長: 田辺繁治), 国立民族学博物館, 1998年2月7日

48) グアテマラ西部先住民共同体における開発と文化——エスニック観光・移民労働・アイデンティティ——, 日本民族学会第32回研究大会, 西南学院大学, 1998年5月24日

49) 身体を鑄込み治すこと——現代生活における実践——, 日本民族学会第32回研究大会, 分科会「『現代医療』の文化人類学」(代表者: 武井秀夫), 西南学院大学, 1998年5月24日

50) 実践共同体としての科学者集団—熱帯生態学を手がかりとして—, 第9回「認知と実践」研究会(座長: 田辺繁治), 国立民族学博物館, 1998年11月28日

51) バイオサイエンスの科学社会学・序説—La Selva, Costa Ricaにおける生態学者のMicrosociological Surveyを事例にして—, 熊本大学バイオサイエンスシンポジウム, 熊本大学大学院自然科学研究科, 1999年3月16日

52) 医療的身体の構築, [松岡秀明との共同] 日本民族学会第33回研究大会, 分科会「医療的身体の構築」(代表者: 松岡秀明・池田光穂), 東京都立大学, 1999年5月29日

52) 保健=健康の人類学の誕生—援助する人類学者とその社会的使命に関する考察—日本民族学会第33回研究大会, 分科会「医療的身体の構築」(代表者: 松岡秀明・池田光穂), 東京都立大学, 1999年5月29日

53) エージェンシーと社会の再想像—グアテマラの経験, 「実践コミュニティの再検討」共

同研究会 (座長: 田辺繁治), 国立民族学博物館, 2000年3月17日

54) グアテマラ: 政治暴力のゆくえ, 「紛争の政治化と軍事化」共同研究会 (座長: 松田素二), 国立民族学博物館, 2000年10月29日

55) グアテマラ——和平合意後のゆくえ——, 日本ラテンアメリカ学会第22回定期大会, パネルD「グアテマラ——和平合意後のゆくえ——」, (司会と発表) [発表者: 池田光穂、狐崎知己、飯島みどり、太田好信; コメンテータ: 八杉佳穂], 名古屋大学, 2001年6月3日

56) コメンテータ, 道信良子 (札幌医科大学) 「HIV感染予防対策と女性たちの自己同一性: HIV感染予防の医療人類学的考察」 「民族間関係・移動・文化再編」第14回研究会, 京都大学東南アジア研究センター, 2002年3月5日

57) エコ・ツーリズムを通してみた自然環境、平成13年国立歴史民俗博物館「農耕社会の形成と環境への影響: 環境利用システムの多様性と生活世界」第4回共同研究会、国立歴史民俗博物館, 2002年3月16日

58) もうひとつの危機管理、平成14年度長崎大学熱帯医学研究所・共同研究事業「研究集会: 危機管理としての熱帯病対策」、長崎大学熱帯医学研究所, 2002年12月26日

59) 医療のポストモダン——脱病院化社会を考える——、第93回日本麻酔科学会東海地方会総会「教養講座」、愛知医科大学, 2003年2月15日

60) 民族医療の領有について: 戦術編、BE (Bio-Economics) 研究会 (大阪市立大学経済学部) 合宿コンファランス、ホテル・アウイーナ大阪, 2003年3月31日

61) 医療人類学の視点から、第89回日本消化器病学会総会特別講演、さいたまスーパーアリーナ, 2003年4月25日

62) 近代日本における未完のプロジェクト: 帝国医療、日本民族学会第37回研究大会・分科会「帝国医療の逆襲: 21世紀ポストコロニーの医療を考える」 (組織者・奥野克巳)、京都文教大学, 2003年5月24日

63) コスモポリタン再考——医療と統治術のはざままで、ワークショップ「トランスナショナルリティ研究の地平」トランスナショナルリティ研究プロジェクト・大阪大学21世紀COEプ

プログラム「インターフェイスの人文学」、千里阪急ホテル（豊中市）、2003年7月15日

64) コメンテーター：寺田光徳『梅毒の文学史』平凡社、ピアレビュー研究会、熊本大学文学部文学科、熊本大学くすのき会館、2003年7月30日

65) 移民・難民・人類学者：グローバリゼーションとグアテマラ、シンポジウム「トランスナショナリティ研究の地平」トランスナショナリティ研究プロジェクト・大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」、大阪大学人間科学部、2003年11月30日

66) グローバルポリティクス時代の国際医療協力、地域研究企画交流センター／長崎大学熱帯医学研究所主催シンポジウム「熱帯医学と地域研究：知の実践と構築」、京都市国際交流会館、2003年2月4日

67) 後発帝国医療：ファントム・メディシンの諸相、分科会「帝国医療の問題系：近代化のレッスン」（代表者：池田光穂・奥野克巳）日本文化人類学会第38回研究大会、東京外国語大学（東京都府中市）、2004年6月6日

68) ポスト帝国医療——沖縄の公衆衛生看護婦を中心に、国立民族学博物館共同研究会「グローバル化がもたらす保健システムの変貌」（研究代表者：池田光穂）、国立民族学博物館、2004年10月8日

69) On Their Ways of Talking about 'Economic Development': A case study of a Mayan Indian Community of Guatemala. "The Social Use of Anthropology in the Contemporary World," the Margaret Mead Memorial Symposium, National Museum of Ethnology, Suita City, Osaka, Japan. 29 October 2004.

70) デュオニソスのペシミズム、関西学院大学 COE ワークショップ 2004「幸福のフィールドワークへ：社会学・人類学・民俗学クロスセクションの試み」セッション2：〈幸福〉の対岸で考える——紛争と暴力の現場から、西宮市、関西学院大学、2005年3月18日

71) 医療は先住民に役立つのか？——植民地における健康状態・再考、分科会「周縁化される他者の身体：帝国医療の諸相」（代表者：奥野克巳・池田光穂）、日本文化人類学会第39回研究大会、北海道大学クラーク会館、2005年5月21日

72) Testing A New Interdisciplinary Evaluation Method: a case of the Maternal and Child Health Handbook project in Central Java, Indonesia, by Yasuhide Nakamura, Aiko Kurasawa,

Mitsuho Ikeda, Takayoshi Kusago, Tamotsu Nakasa, Andryansyah Arifin, Joint CES/AEA Conference, Toronto, CANADA, (カナダ・米国評価学会合同学術大会)、トロント、2005年10月24-30日

73) コーディネーター及び司会、「科学技術と社会」アエラス・フォーラムII・第4回研究会、京都東急ホテル、2005年10月28日・29日

74) インドネシア母子健康手帳プログラムに関する学際的調査(高橋真央, 天沼直子, 中村安秀, 草郷孝好, 仲佐保, 倉沢愛子, 池田光穂)、第20回日本国際保健医療学会、東京大学本郷キャンパス、2005年11月5日

75) 研究提言『『忙しいから後にして!』あるいは我々は如何にして暇人(scholar)から時間と金銭に呪縛されたる知識奴隷(intellectual slave) / 研究鬼畜("intelli-agent")へと墮落したのか? またはその解放のための奥義を尋ね生活実践を通して如何なるように自己を改造すべきか?』、COE「インターフェイスの人文科学」第10回研究集合、大阪大学大学院文学研究科本館第一会議室、2005年11月24日

76) 「保健医療プロジェクトの新しい学際的な評価法に関するケーススタディ」(仲佐保, 中村安秀, 草郷孝好, 池田光穂, 天沼直子, 倉沢愛子)、広島大学東千田町キャンパス、日本評価学会第4回全国大会、2005年12月10日

77) 「基調講演: 福祉・看護・医療における人文・社会科学の挑戦」臨床コミュニケーションデザインプロジェクト・ワークショップ「福祉・看護・医療における人文・社会科学の挑戦」、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター会議室、2006年1月7日

78) 「教育に携わる人のための医療人類学入門」(池田光穂・奥野克巳) 臨床コミュニケーションデザインプロジェクト・ワークショップ「福祉・看護・医療における人文・社会科学の挑戦」、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター会議室、2006年1月8日

79) グアテマラ先住民の行動と主張: 「人間の安全保障」の具体的な理解の方法について、大阪大学・文系戦略ワーキング「人間の安全保障: 第1回ワークショップ」千里ライフサイエンスセンター会議室、2006年2月27日

80) 医療と人権: 文化人類学の観点から考える、第186回保健医療社会学会・関西地区定例研究会、大阪市立大学文化交流センター、2006年3月28日

- 81) 基調講演「医療通訳と人権を考える：医療人類学の視点」、医療通訳研究会 (MEDINT) 4 周年記念公開シンポジウム、西宮市大学交流センター、2006 年 4 月 16 日
- 82) 記憶＝記録の悪魔：ドキュメントにおける記憶（声）とジャズレコードの記録（刻印）について、分科会「音的近代／民族誌的近代：音の記録史から声の文字化を再考する」（代表者：太田好信）、日本文化人類学会第 40 回研究大会、東京大学駒場キャンパス、2006 年 6 月 4 日
- 83) コメンテーター、「文化人類学は医療協力の役に立つのか？：医療従事者と人類学者の対話にむけて」第 47 回日本熱帯医学会・第 21 回日本国際保健医療学会合同大会シンポジウム、長崎市・長崎ブリックホール、2006 年 10 月 13 日
- 84) 臨床コミュニケーションプログラムの開発、中岡成文、池田光穂、西村ユミ、西川勝、中西淑美、平井啓、文理融合研究の展望 2, 大阪大学研究推進室文理融合研究戦略ワーキング、大阪大学中之島センター、2006 年 12 月 17 日
- 85) From Sickness to Badness: Popular images on "Boke" (senile dementia and other related symptoms) in Japan. In Symposium 17: Psychiatry and Culture, the Japanese Society of Transcultural Psychiatry (JSTP), the World Psychiatric Association, Transcultural Psychiatry Sections (WPATPS), and the World Association of Cultural Psychiatry (WACP) Joint Meeting in Kamakura, Hayama, Kanagawa Pref.:Shonan Village Center, April 28, 2007
- 86) 植民国家における先住民の自己顕示 (2)：グアテマラの先住民言語と社会のダイナミズム、分科会 3 「文化政策」、日本ラテンアメリカ学会第 28 回定期大会、南山大学、2007 年 6 月 2 日
- 87) コメンテーター、「PTSD と「記憶」の歴史——アラン・ヤング教授を迎えて」立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点・特別公開企画、2007 年 7 月 21 日
- 88) 医療人文学の臨終：その日、医療人文学研究会第 1 回研究会記念シンポジウム、大阪大学人間科学部、2007 年 11 月 22 日
- 89) 大学教育における PBL 方式：授業の実践とねらい、2007 年度近大姫路大学看護学部 FD 講演会、近大姫路大学看護学部、2007 年 12 月 14 日
- 90) 「臨床」とはなにか？、「サイエンスショップにおける臨床研究の可能性」研究会（ファ

イザーヘルスリサーチ振興財団助成)、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、2008年2月3日

91) 医療人類学のグローバル化(1):研究者の動向、国立民族学博物館共同研究会「グローバル化がもたらす保健システムの変貌」、国立民族学博物館、2008年2月16日

92) 研究成果の社会への還元:医学分野を中心に、2007年度第1回大学院教員研修会(FD)、産業医科大学大学院、2008年2月18日

93) アジアの医療人類学入門、国際交流基金主催・2007年度第三期異文化理解講座「アジアの〈こころ〉と〈からだ〉」、ジャパンファウンデーション国際会議場、東京都新宿区、2008年3月18日

94) 医療人類学の近未来を語る、文化人類学会北海道地区研究懇談会・北海道民族学会共催研究会「医療人類学の近未来を語る」、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟、北海道札幌市、2008年3月29日

95) 教育を通じた人類学的デモクラシーの実践、日本文化人類学会第42回研究大会・分科会「医療人類学を学ぶこと／教えること」京都大学吉田南構内、2008年6月1日

96) 医療と文化の多元主義:日本事例の検討、第17回びわ湖国際医療フォーラム、ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)、2008年7月5日

97) コメンテーター、第四セッション「『似て非なるもの』——ブラジルと日本の狭間で生きるブラジル人たち:コンフリクト、苦悩、新たなアイデンティティの構築、様々な予防形態」国際セミナー『移動とアイデンティティ:コンフリクトと新たな地平』(2008年8月5日~7日)、カマルゴ・グアルニエリ講堂、サンパウロ大学、2008年8月7日(Comentarista, Mesa IV, Parece mas não é, Brasileiros entre o Brasil e o Japão: Conflitos, sofrimento, novas idendidades em construção e formas de prevenção. Seminário Internacional, MIGRAÇÕES E IDENTIDADES: CONFLITOS E NOVOS HORIZONTES, 5 a 7 de agosto de 2008, Anfiteatro Camargo Guarnieri, Cidade Univeritária Unidersidad de São Paulo, Brasil. 7 de agosto de 2008.)

98) 文化の翻訳に資格はいらない:制度的通訳と文化人類学、日本パブリックサービス通訳翻訳学会・第4回大会、シンポジウム「通訳者の資格について」、大阪市北区東和エンジニアリング会議室、2008年10月5日

- 99) ものづくり・創造性教育のための PBL 入門:医学教育の先行事例から学ぶ(特別講演)、第 6 回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム、主催:大阪大学工学部/大学院工学研究科創造工学センター、共催:全国国立大学法人「ものづくり・創造性教育施設ネットワーク」、2008 年 11 月 26 日
- 100) 教育を通して教師が自己成長する PBL プログラム、第 2 回近大姫路大学看護学部 FD 研究会、近大姫路大学(兵庫県姫路市)、2008 年 12 月 9 日
- 101) 在日外国人支援のための社会調査技法について、第 18 回びわ湖国際医療フォーラム、ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)、2009 年 1 月 10 日
- 102) 狂気を装う:〈異常〉の権利を社会はどのように保全してゆくのか、STS Network Japan 研究会 2009、京都大学芝蘭会館、2009 年 1 月 24 日
- 103) ものづくり・創造性教育のための PBL 入門:医学教育の先行事例から学ぶ、宇都宮大学工学部 FD 研修会、宇都宮大学工学部、2009 年 2 月 24 日
- 104) 臨床コミュニケーションをひらく:開く・啓く・拓く、現代 GP「双方向型医療コミュニケーション教育の展開」(札幌医科大学・北海道医療大学主催)シンポジウム「医療を伝える“場”『メディカル・カフェ』」センチュリーロイヤルホテル(札幌市)、2009 年 3 月 14 日
- 105) 臨床コミュニケーション教育における発話の実践と対話的関連性について[池田光穂・西村ユミ]、電子情報通信学会・ヒューマンコミュニケーション基礎研究会、沖縄産業支援センター(沖縄県那覇市)、2009 年 5 月 14 日
- 106) サイエンスショップにおける臨床研究の可能性:市民の声から協働のあり方を探る[西村ユミ・池田光穂]、電子情報通信学会・ヒューマンコミュニケーション基礎研究会、沖縄産業支援センター(沖縄県那覇市)、2009 年 5 月 14 日
- 107) 保健医療社会学における「問題にもとづく学習」手法の可能性について、第 35 回日本保健医療社会学大会、熊本大学大学教育センター(熊本市)、2009 年 5 月 16 日
- 108) コメンテーター、分科会「アジアの近代化とリプロダクションの変容」(座長:松岡悦子)、日本文化人類学会第 43 回研究大会、大阪市国際交流センター(大阪市)、2009 年 5 月

30日

109) グアテマラにおけるマヤ先住民表象のダイナミズム、日本文化人類学会第43回研究大会、大阪市国際交流センター(大阪市)、2009年5月31日

110) コメンテーター、分科会「宗教と越境：宗教的「他者」はどのように「他者」でなくなるか」(座長：松岡秀明) 日本文化人類学会第43回研究大会、大阪市国際交流センター(大阪市)、2009年5月30日

111) 臨床コミュニケーション教育：PBLから対話論理へ、対話論理から実践へ、第1回日本ヘルスコミュニケーション研究会、東京大学医学部附属病院入院棟大会議室(東京都文京区)、2009年7月10日

112) 情動理解のための文化人類学的基礎、平成21年度生理学研究所研究会「感覚刺激・薬物による快・不快情動生成機構とその破綻」、生理学研究所(愛知県岡崎市)、2009年10月1日

113) 実験室における自然：神経生理学研究室の事例から、熊本大学大学院社会文化科学研究科主催フィールドリサーチセミナー「自然と文化のインターフェイス」、熊本大学大学教育センター(熊本市)、2009年12月19日

114) 渡日外国人労働者に対する構造的暴力：保健医療への人類学的アプローチ、[池田光穂、ジェレマイヤ・モック]、第20回びわ湖国際医療フォーラム、ピアザ淡海(大津市)、2010年1月9日

115) パネリスト：日本科学技術振興機構(JST)CREST「先進的統合センシング技術：研究領域「パラサイトヒューマンネットによる五感情報通信・環境センシング・行動誘導」第2回シンポジウム「感覚提示による体験共有型行動誘導・支援：行動支援でまもる安心安全」、大阪大学吹田キャンパス・コンベンションセンター、2010年2月22日

116) 日本からの医療通訳：医療行動とその実現可能性、第6回「医療観光国際フォーラム」翰林大学校(大韓民国・春川市)、2010年3月22日

117) ディスコミュニケーションとコミュニケーション支援：その理論的素描、[共著：伊藤京子、西村ユミ]、電子情報通信学会・ヒューマンコミュニケーション基礎研究会、沖縄産業支援センター(沖縄県那覇市)、2010年5月13日

- 118) 構造的暴力と健康と病いの社会学、第 36 回日本保健医療社会学会大会、山口県立大学看護栄養学部 (山口市)、2010 年 5 月 16 日
- 119) 役割を再生産し続ける看護職とその言説 [指定討論者]、第 36 回日本保健医療社会学会大会、山口県立大学看護栄養学部 (山口市)、2010 年 5 月 16 日
- 120) 中米先住民運動と政治的アイデンティティ：メキシコとグアテマラの比較、日本ラテンアメリカ学会第 31 回定期大会・分科会「先住民——アイデンティティ模索の歴史的考察」京大会館 (京都市右京区)、2010 年 6 月 6 日
- 121) 「自然」と「文化」の境界面：神経生理学研究室の事例検討、第 44 回日本文化人類学会研究大会・分科会「自然と社会の民族誌：人間と動物の連続性」、立教大学座間キャンパス、2010 年 6 月 12 日
- 122) 『看護人類学入門』(文化書房博文社) の紹介と現象学との接点について、第 16 回臨床実践の現象学研究会、大阪大学待兼山会館 (豊中市)、2010 年 7 月 10 日
- 123) La Identidad Política y los Movimientos Indígenas: Estudios Comparativo entre Guatemala y México. Programa de Investigaciones Multidisciplinarias sobre Mesoamérica y el Sureste - Instituto de Investigaciones Antropológicas - Universidad Nacional Autónoma de México, PROIMMSE, メキシコ合衆国チアパス州サンクリストバル・デ・ラスカサス市、2010 年 8 月 18 日
- 124) 「自然」と「文化」の境界面、人獣科学研究会、総合地球環境学研究所 (京都市北区)、2010 年 11 月 20 日
- 125) 生物多様性概念の社会化、人獣科学研究会、総合地球環境学研究所 (京都市北区)、2010 年 11 月 21 日
- 126) EPA を通してみるコミュニティ・移民労働・ディアスポラ：その文化人類学的考察、第 3 回東南アジア医療・福祉事情研究会、日本橋ビジネスセンター (東京都中央区)、2011 年 1 月 29 日
- 127) 人間と動物のあいだを繋ぐものは〈自然〉なのか、それとも〈文化〉なのか？：現代社会における動物の位相のダイナミズム、「宗教と社会」学会 2010 年度・関西地区大会、

関西学院大学梅田キャンパス (大阪市北区)、2011 年 2 月 26 日

128) 拡張するヘルスコミュニケーションの現場 (大会会長講演)、第 37 回日本保健医療社会学大会、大阪大学文系総合研究棟 (大阪府豊中市)、2011 年 5 月 21 日

129) 地方分権における先住民コミュニティの自治: グアテマラ西部高地における事例の考察、日本ラテンアメリカ学会第 32 回定期大会、上智大学四谷キャンパス (東京都千代田区)、2011 年 6 月 4 日

130) 反逆する自然、癒される自然: 日本における生物多様性概念の社会化について、日本文化人類学会第 45 回研究大会、法政大学市ヶ谷キャンパス (東京都千代田区)、2011 年 6 月 12 日

131) 看護人類学から人類学的看護へ (大会基調講演)、日本遺伝看護学会第 10 回大会、日本赤十字看護大学 (東京都渋谷区)、2011 年 9 月 24 日

132) 痛みの比較文化論 (特別講演)、第 117 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、ANA クラウンプラザホテル宇部 (山口県宇部市)、2011 年 10 月 29 日

133) コメンテーター: ラウンドテーブル「現代社会における医療化と病の社会化」(金沢大学 RISTEX プロジェクト・大阪大学医療人文学研究会合同研究会「自閉症研究と医療化」)、KKR ホテル金沢 (石川県金沢市)、2012 年 2 月 26 日

134) 翻訳行為としての保健: 医療行為の新解釈、ラウンドテーブルディスカッション (企画と話題提供者)、第 38 回日本保健医療社会学学会大会、神戸市看護大学 (神戸市西区)、2012 年 5 月 20 日

135) 医療現場での医療通訳者の「文化の翻訳」の位相について、日本文化人類学会第 46 回研究大会、広島大学東広島キャンパス (広島県東広島市)、2012 年 6 月 24 日

136) プリズムとしての地方政治: グアテマラ・マヤ系先住民の文化と自治、第 33 回日本ラテンアメリカ学会定期大会、中部大学 (愛知県春日井市)、2012 年 7 月 4 日

137) 人間機械論・再考、オムロンヘルスケア・東京大学情報学環共同主催「人間と機械の未来を考える研究会」(招待講演)、オムロンヘルスケア株式会社 (京都府長岡京市)、2012 年 9 月 26 日

- 138) 研究倫理 ABC : 「理解する」から「実践する」へ、研究倫理に関する FD 研究講演会 (第 3 回)、琉球大学大学院医学研究科主催、琉球大学医学部、2012 年 10 月 3 日
- 139) 動物とのつきあい方 Ver.2.0 : 主体／客体としての動物考」第 18 回「語ろう！どうぶつ」研究会、「いちなん」(京都市左京区)、2013 年 4 月 27 日
- 140) ラウンドテーブルディスカッション「病いの語り：哲学と人類学・社会学の架橋」(企画と講演)、第 39 回日本保健医療社会学会大会、東洋大学朝霞キャンパス、2013 年 5 月 18 日
- 141) 「医療人類学からみた日本のプライマリ・ケア」シンポジウム「学際的な視点から模索する日本のプライマリ・ケアの在り方」(座長：草場鉄周)、第 4 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、仙台国際センター、2013 年 5 月 19 日
- 142) 「マヤ系先住民における地方自治をめぐる政治意識について」パネルディスカッション「メキシコとグアテマラにおける先住民・アイデンティティ・自治をめぐる諸問題」(企画と講演)、日本ラテンアメリカ学会第 34 回定期大会、獨協大学 (埼玉県草加市)、2013 年 6 月 1 日
- 143) 「先住民のアイデンティティについて考える：グアテマラ西部のマヤ系先住民の事例」日本文化人類学会第 47 回研究大会、慶應義塾大学三田キャンパス、2013 年 6 月 8 日
- 144) 「先住民のアイデンティティについて考える (Угугулүндэстний асуудалд)」モンゴル・日本国際学術交流シンポジウム・国際シンポジウム「モンゴルと日本～過去・現在・未来」日本＝モンゴル協会、ウランバートル、2013 年 8 月 10 日 (招待講演)
- 145) 「研究を進めていく上で起こりうる倫理上の諸問題等について学ぶ：フィールドワーク研究と調査被害」新潟県立看護大学・研究推進委員会・倫理委員会共催講演会、新潟県立看護大学 第 2 ホール (新潟県上越市新南町 240)、2013 年 12 月 4 日 (招待講演)
- 146) Making Medical Anthropology in Japan: A memoir of the ten years of Osaka in 1980s. Conference Honoring Margaret Lock, "New Directions in Social Studies of medicine, Science, and Ethics." March 13, 2014, at Princeton Institute of International and Regional Studies, Princeton University. (招待講演)

- 147) Searching for real “Mam”: Political Issues on Civil and Indigenous Rights among the Mam-Maya People in Guatemala. IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2014, May 18, 2014, at Makuhari Messe, Chiba City, Japan.
- 148) 「研究倫理入門：不正の管理から公正の創造へ」摂南大学医療研究倫理研修会、摂南大学枚方キャンパス 711 教室（大阪府枚方市）、2014年9月8日（招待講演）
- 149) 「研究の不正について」（看護研究の特別講義）および研究倫理講演会、長野県看護大学（長野県駒ヶ根市）、2014年9月12日（招待講演）
- 150) 「研究倫理の顔がどんな表情をしているのか？——Communication-Design Studies」
「質的研究と倫理：対話と葛藤としての研究倫理」『質的心理学フォーラム』編集委員会企画シンポジウム、日本質的心理学会第11回大会、松山大学8号館（愛媛県松山市）2014年10月18日。
- 151) 「学部生に対する研究倫理の指導法」室蘭工業大学 FD 講演会、室蘭工業大学、2015年3月12日（招待講演）
- 152) 「アントノフスキー理論の医療社会学：アーロン・アントノフスキーとユダヤ思想について」第41回保健医療社会学会大会（一般演題会場 C「社会・文化と医療」）、首都大学東京・荒川キャンパス（東京都荒川区）、2015年5月17日。
- 153) 「独自なるものとしてのショロイツクイントゥリ犬」日本文化人類学会第49回研究会・分科会 B(3)「文化空間において我々が犬と出会うとき：狗類学への招待」大阪国際交流センター（大阪市天王寺区）、2015年5月31日
- 154) 我が愛しのグロテスク犬、大阪大学第1回芸術と科学の融合研究会、大阪大学会館（大阪府豊中市）、2015年6月27日。
- 155) 心的外傷後成長における認知症コミュニケーションの可能性、第7回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会、西南学院大学コミュニティセンター（福岡県福岡市）、2015年9月5日
- 156) 研究活動における不正行為とは何か？、山口県立大学平成27年度FD/SDプログラム、山口県立大学（山口市）、2015年9月7日

- 157) フィールドワークの研究倫理を考える:医療人類学の観点から(看護研究の特別講義) および研究倫理講演会、長野県看護大学(長野県駒ヶ根市)、2015年9月28日(招待講演)
- 158) Challenging to Our low-birth-rate-hyper-aging-society: Japanese government, health sectors, and citizen. Workshop of the Governmental Health Policy and Social Responses in East Asian Countries, sponsored of the Japanese Society for Promotion of Sciences, JSPS. November 8, 2015, at Kyoto de Meeting, Minami-ku, Kyoto City.
- 159) カメルーン東南部におけるハンターと犬の関係—狗類学からのアプローチ(2):犬の視点から狩猟採集社会を描く民族誌の試み(大石高典・池田光穂), ヒトと動物の関係学会第22回学術大会, 東京大学弥生講堂(東京都文京区), 2016年3月5日
- 160) ショロ犬とわたしたち:狗類学からのアプローチ(1)(池田光穂・大石高典), ヒトと動物の関係学会第22回学術大会, 東京大学弥生講堂(東京都文京区), 2016年3月6日
- 161) 大学院生に必要なコミュニケーション力とはなにか?:大学院教育における横断的教育プログラム, 第22回21世紀型大学教育セミナー, 主催:大学教育機能開発総合センター, 熊本大学全学教育棟(熊本県熊本市), 2016年3月8日(招待講演)
- 162) プライマリ・ヘルス・ケア 2.0 について:21世紀の健康観と社会学, 第42回日本保健医療社会学会大会、RTD 企画「21世紀の新たな健康観と健康社会学を論じよう」, 追手門大学, 2016年5月15日
- 163) 私たちは多文化医療について何を考えないとならないか?, 第2回多文化医療研究会(総合地球環境学研究所・研究会「エコヘルス」との共催), 総合地球環境学研究所(京都市北区)、2017年4月22日(招待講演)
- 164) "I sometimes confront with the contested situation, and My academic career is also contested," Round table discussion on "Contested Illness Phenomenon: Searching for social factors." Organizer: Dr. Rie Suzuki (University of Michigan), Discussants: Mitsuho Ikeda (Osaka University), Hitomi Irisawa (Hyogo medical University), Hiroto Shimizu (Osaka University), Tatsuya Mima (Ritsumeikan University), and Mike Saks (University of Suffolk), 第43回日本保健医療社会学会、佛教大学二条キャンパス(京都市中京区)、2017年5月19日

165) 病い研究とポリフォニー：ミハイル・バフチンから刺激を受けて（教育講演）、第43回日本保健医療社会学会、佛教大学二条キャンパス（京都市中京区）、2017年5月20日（招待講演）

166) 「支配的存在」を名指し、可視化する試みについて：中央アメリカにおける人種構成の近代を再考する、日本文化人類学会第51回研究大会、神戸大学鶴甲キャンパス（神戸市灘区）、2017年5月28日

167) ショロイツクイントゥリ犬に関する語りとメキシコにおける死の位相、日本ラテンアメリカ学会第38回定期大会、東京大学駒場キャンパス（東京都目黒区）、2017年6月4日

168) アンフェタミン系興奮剤の使用を対象としたハーム・リダクションについての文献検討（徐淑子・池田光穂）[ポスター発表]、日本アルコール関連問題学会、パシフィコ横浜会議センター（神奈川県横浜市西区）、2017年9月9日

169) ヘルスコミュニケーション教育における火星の人類学者の参画について（池田光穂・竹内慶至）第9回日本ヘルスコミュニケーション学会、京都大学医学部（京都市左京区）2017年9月16日

170) Mikhail Bakhtin's Concept of Polyphony and Studies of Illness Narrative: An anthropologist's Notes. Workshop: Challenges of Illness Narratives, Suzaku Campus, 23rd November 2017, Ritsumeikan University, Kyoto City.

171) 日本でのハーム・リダクション概念の導入小史（徐淑子・池田光穂）、第31回日本エイズ学会学術集会・総会、中野サンプラザ（東京都中野区）、2017年11月24～25日（発表日24日）

172) アンフェタミン系興奮剤等の使用に関するハーム・リダクション政策とその実践活動、第2回豊中地区研究交流会、大阪大学理学部南部陽一郎ホール（大阪府豊中市）、2018年1月10日

173) 楽しい認知症とそのガクジュツ的考察について [招待講演]、第2回大阪医科大学看護研究会、大阪医科大学看護学実践センター主催、大阪医科大学看護学部（大阪府高槻市）、2018年3月10日

174) 身体概念を組み換える、ラウンドテーブルディスカッション（RTD）、第44回日本

保健医療社会学会大会、星槎道都大学（北海道北広島市）、2018年5月19日

175) 民俗学とプラグマティックな医学について、近畿民俗学会平成30年度総会・研究集会 [招待講演]、大阪歴史博物館（大阪市中央区）、2018年5月20日

176) 保健医療労働市場と保健医療労働者の国際移動：日本からの応答についての考察、平成30年第1回「ASEAN 経済共同体（AEC）・EPA 状況下の医療保健人材の東アジア域内移動」研究会（研究代表者：奥島夏美）、大阪大学全学教育推進機構（大阪府豊中市）、2018年5月27日

177) 日本における科学技術政策の人類学:科学技術基本法以降の大学と研究開発（R&D）、第52回日本文化人類学会研究大会、弘前大学総合教育棟（弘前市）、2018年6月2日

178) Lepers, Nation-State, and Empress Dowager: A Prolegomena to medical anthropology of bio-power governmentality, Mitsuho IKEDA and Hideaki MATSUOKA, the 60th annual meeting of the Korean Society of Cultural Anthropology, June 9, 2018, Seoul National University, Seoul, Korea.

179) グローバルエイジングと人類学的アプローチ：その方法論的覚書、平成30年度グローバルエイジング科研合同研究会、首都大学東京秋葉原キャンパス、東京都台東区、2018年7月8日

180) The Mayan Traditional Medicine: Theories and Ethics, Mitsuho Ikeda. "INTERNATIONAL ASSOCIATION of LAW, ETHICS and SCIENCE FRENCH NATIONAL COMMISSION for UNESCO CENTRE de DROIT de la SANTE-UNIVERSITE AIX-MARSEILLE ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY," The VIII-th FRENCH-JAPANESE INTERNATIONAL BIOETHICS CONFERENCE, at EHIME University, Matsuyama City/ August 2-3, 2018.

181) Concluding remarks. 公開シンポジウム「STEAMM：理系、芸術、文系を融合させた人材育成を考える」千里ライフサイエンスセンター山村雄一記念ライフホール、大阪府吹田市、2018年9月7日

182) 医療やケアのグローバル化に伴うコミュニケーションの問題をあぶりだす（分科会趣旨説明）、第10回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会、九州大学病院キャンパス・コラボステーション視聴覚ホール、福岡県東区、2018年9月14日

183) 科研申請者のための研究倫理講習会、大阪大学 CO デザインセンター研究推進室、大阪府豊中市、2018年9月19日

184) 英語教育のための PBL 教授法ワークショップ、京都外国語専門学校、京都市左京区、2018年10月27日

185) 学生と教職員がともにつくる研究倫理教育の可能性について (基調講演)、平成 30 年度 IDE 大学協会九州支部第 50 回セミナー、TKP ガーデンシティ PREMIUM 博多駅前、福岡市博多区、2018年10月28日

186) How has the Concept of Harm Reduction been introduced and interpreted in Japan? Sookja SUH and Mitsuho IKEDA. The 20th International Society of Addiction Medicine Annual Meeting BUSAN 2018, 3-6 November 2018, BEXCO Busan, KOREA(Rep).

187) Should We Think about Multicultural Medical Systems? The 2nd Junior Faculty Training Program, Medical Humanities in Asia: Aging and Care-Giving. 9-11 November 2018. Shenzhen, Shenzhen, China.

188) Introducing and Interpreting of Concepts of Harm Reduction in modern Japan. Mitsuho IKEDA and Sookja SUH. The 3rd Interinstitutional academic meeting in Toyonaka Campus 2018, 18 December 2018, Toyonaka, Osaka, Japan.

189) 軍事的インテリジェンスの人類学序説、国立民族学博物館共同研究会「人類学／民俗学の学知と国民国家の関係：20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス」(研究代表者：中生勝美)、大阪府吹田市、2018年12月27日

=====

5. 一般講演

=====

1) 死の医療人類学、関西看護専門学校学校祭講演、1988年12月20日

2) 中米メスティーソ社会の医療状況、大阪府保険医師会主催講演会、1989年7月10日

3) 歯の健康・再考—文化からみた歯科保健事業、歯科保健サマーワークショップ実行委員会

主催, 1990年8月4日

4)社会医学講義, 神戸柔整師協会主催・卒後研修会, 1990年9月23日

5)医学概論講義, 兵庫県柔道整復師協会主催・卒後研修会, 1991年1月15日

6)医療人類学からみた今日の歯科保健, 愛知県歯科医師会・歯科衛生士会年次大会, 愛知県歯科衛生士会主催, 1991年2月17日

7)ODAから草の根援助まで—わたしたちにとっての国際協力, 奈良県立高取高等学校学園祭記念講演, 1991年9月11日

8)医療がもたらすもの, 大阪市民講座「高齢者と宗教」, 大阪市教育委員会, 1991年12月4日

9)フィクショナル・ツーリズム, 暮らしのセミナー「新しい旅の発見」, 大阪市立婦人会館, 1992年6月30日

10)ラテンアメリカからみた世界と日本—地球環境問題を考える, 講座「地球時代の世界と日本」, 箕面市教育委員会, 1992年7月1日,

11)異質体験を求める旅, 公開講座「豊かな高齢化社会を迎えるためのセミナー」, 東日本学園大学主催, 1992年9月12日

12)講義:脳死および臓器移植についてのコメント, 平成4年度第4回日本医師会生涯教育講座「実地医家のための“脳死と臓器移植”入門」, 北海道医師会主催,
1993年3月13日

13)現代不老不死論—脳死・臓器移植と考える, 教養講座「生命と生活セミナー」,
札幌市, 東日本学園大学主催, 1993年7月24日

14)国際観光からみた世界と日本, 平成5年度本科Aコース, 全国市町村国際文化研修所(財:全国市町村振興協会)、大津市, 1993年9月13日, 14日

15)環境保護を見すえた観光, 東日本学園大学一般公開講座, 札幌市, 1993年9月25日

- 16) ジンルイガクシャの仕事あるいは身体の文化政治学, 埼玉医科大学学園祭講演, 埼玉医科大学, 1998年11月3日
- 17) NHKラジオ第二放送「18歳の選択」、2000年2月25日午後5時～6時放送（生放送）
- 18) RKKラジオ、熊本大学オンエア第10回「書を捨てて旅に出よう」、2000年11月5日午前8時10分～30分（収録放送）
- 19) 男と女の人類学、男女協働政経塾（熊本県・熊本大学・熊本学園大学・熊本県立大学共催）、2001年8月31日、熊本市民会館
- 20) FM中九州（FMK）Evening Journal、“NEWS PICK UP”「文化人類学から見た出生率低下」、2002年6月19日、午後5時30分～50分（生放送）
- 21) 第1回世界をよく知るセミナー「インターネットと国際交流」、コーディネーター（出演者：カーク・マスデン熊本学園大学助教授、ブルーノ・ジャクタ熊本大学講師）、（財）熊本市国際交流会館、2002年7月18日
- 22) FM中九州（FMK）Evening Journal、“NEWS PICK UP”「グアテマラの政治と暴力1」2002年11月20日午後5時30分～50分（生放送）
- 23) FM中九州（FMK）Evening Journal、“NEWS PICK UP”「グアテマラの政治と暴力2」2002年12月18日午後5時30分～50分（生放送）
- 24) FM中九州（FMK）Evening Journal、“NEWS PICK UP”「グアテマラの政治と暴力3」2003年1月8日午後5時30分～50分（生放送）
- 25) FM中九州（FMK）Evening Journal、“NEWS PICK UP”「授業をよくするには」2003年2月19日午後5時30分～50分（生放送）
- 26) 医療と文化、特別講演、国立熊本病院附属看護学校、2003年3月13日
- 27) FM中九州（FMK）Evening Journal、“NEWS PICK UP”「勉強できる身体改造法」2003年3月19日午後5時30分～50分（生放送）

- 28) FM中九州 (FMK) Evening Journal、“NEWS PICK UP”午後5時30分～50分 (生放送) にほぼ月1回出演 (～2005年3月まで)
- 29) 「帝国医療とラテンアメリカの身体」国際交流基金・中南米理解講座 2005年度第2期 「中南米入門：グローバル化と地域性」エデュケーション・ネットワーク銀座校 (有楽町)、2005年10月17日
- 30) 〈生き方〉としての文化人類学、藤蔭講座「高校2年生のための進路選択の指針」講義、大阪府立春日丘高等学校、2007年2月7日
- 31) 医療人類学ってなんだろう？、日本国際保健医療学会・学生部会、大阪大学人間科学研究科、2007年10月6日
- 32) シンポジスト「虚構としての認知症ケア：ためらうことの意味」平成19年度文部科学省学術フロンティア推進事業「認知症高齢者のトータルケアに関する学術的研究」公開シンポジウム、北海道医療大学大学院看護福祉学研究科主催、京王プラザホテル札幌、札幌市、2008年1月27日
- 33) 医療の研究、藤蔭講座「高校2年生のための進路選択の指針」講義、大阪府立春日丘高等学校、2008年1月31日
- 34) 医療の研究、藤蔭講座「高校2年生のための進路選択の指針」講義、大阪府立春日丘高等学校、2009年1月28日
- 35) 大学の先生、進路学習・講義、豊中市立第十一中学校、2009年2月17日
- 36) 天職としての看護、大阪大学看護同窓会講演、大阪大学豊中キャンパス・文系総合研究棟、2009年5月2日
- 37) 人文社会系ゼミで学ぶ高校生のためのライフデザイン、大阪大学豊中キャンパス、基礎工学部I棟、CSCD オレンジショップ、2009年11月10日
- 38) 恋愛の人類学 (メインゲスト：本田透 (ライトノベル作家)；インタビュアー：池田光穂)、桜美林大学明々館、2009年12月16日
- 39) 教育フォーラム「これからの教育—変えねばならないこと、変えてはならないこと」(パ

ネラー) 畑田家住宅活用保存会・教育フォーラム (大阪府羽曳野市)、2010年11月14日

40) 「ヤノマミ×人間」を語る——NHK ディレクター・国分拓さんを迎えて、講演：国分拓×対談：池田光穂、桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス、2010年11月27日

41) 映画解説「私の中のあなた」(上演後講演)、みんぱくワールドシネマ・映像に描かれる〈包摂と自律〉——家族のゆくえ——第20回上映会、国立民族学博物館・講堂、2013年5月12日

42) 【民族文化 DAY 対談】リベラルアーツから「モンゴル」を語る (池田光穂+片山博文・桜美林大学教授との講演と対談)、桜美林大学 (東京都町田市)、2014年12月12日

=====
6. 書評および文献紹介
=====

1) 「健康の政治経済学における『従属理論』」(L.M.Morgan, Medical Anthropological Quarterly, NS, 1, 131, 1987), メディカルヒューマニティ, 8号, pp.111-113, 1987

2) 書評：フォスターら著『医療人類学』リポート、医療人類学, 0号, p.7, 1988年7月 (斎藤明彦との共著)

3) 「ハイチの治療師における刷新」(J.Coreil, Human Organization, 47, 48, 1988), メディカルヒューマニティ, 3巻2号, pp.102-103, 1988

4) 「看護教育における人類学者の役割」(N.J.Crisman, Practicing Anthropology, 10, 6, 1988), メディカルヒューマニティ, 3巻3号, pp.96-97, 1988

5) Medical Anthropology Quarterly 誌紹介と論文「西洋の心, 外来の身体」(J.H.Sharon, Medi.Anthrop.Quart., 2, 59, 1988) 紹介, 医療人類学, 1巻1号, p.6, 1988年9月 (斎藤明彦との共著)

6) 「患者はそのように死んだ」(D.A.Segal, Anthropology Quarterly, 61, 17, 1988), メディカルヒューマニティ, 3巻4号, pp.100-101, 1988

- 7)定まらぬ社会科学的コンセンサス (フェルドマンほか編『エイズの社会的衝撃』日本評論社), モダンメディシン, 1988年12月号, p.93, 1988
- 8)書評: 立花隆『脳死再論』中央公論社, モダンメディシン, 1989年3月号, p.115, 1989
- 9)書評: セルツァー『からだの宇宙誌』春秋社, モダンメディシン, 1989年4月号, p.113, 1989
- 10)「血の魔力—月経の人類学的研究」(Brukley,T. et al.,in "Blood Magic",University of California Press,p.3-50,1988), メディカル・ヒューマニティ, 4巻1号, pp.99-100, 1989
- 11)書評: 大平健ら編『精神医学と文化人類学』金剛出版, モダンメディシン, 1989年6月号, p.125
- 12)「選択的, それとも包括的プライマリーヘルスケア—それをめぐる最近の論争」(Selective or Comprehensive Primary Health Care?, Soc.Sci.Med.,Vol.26,No.9, 1988) メディカル・ヒューマニティ, 4巻2号, pp.100-101, 1989
- 13)日本語で書かれた医療人類学文献 (文献リスト), 医療人類学研究会, 大阪, 1989
- 14)「苦悩を表現することの社会的意味」(P.J.Guarnaccia and P.Farias:The Social Meanings of Nervios ; A Case Study of a Central American Woman: Soc.Sci.Med. 26(12),pp.1223-1231,1988) メディカル・ヒューマニティ, 4巻3号, pp.99-101, 1989
- 15)文献紹介:M・ロック『都市部日本の東アジア医療』(Margaret Lock,"East Asian Medicine in Urban Japan",University of California Press,1980), 医療人類学, 2巻5号, p.2, 1989年11月
- 16)書評: 米本昌平『遺伝管理社会』弘文堂, モダンメディシン, 1989年12月号, p.112
- 17)論文紹介: チェン・イー・ワン「中国文化のコンテクストにおける心身症」, 医療人類学, 2巻6号, p.4, 1990年2月
- 18)書評: ベッカー『死の拒絶』(今防人訳), モダンメディシン, 1990年3月号, p.113
- 19)「ナチ医学に関する資料—ドイツの医療社会学の研究動向」(Maretzki,Thomas:The

Documentation of Nazi Medicine by German Medical Sociologists: A Review Article., Soc.Sci.Med.Vol.29, No.12, pp.1319-1332, 1989), メディカル・ヒューマニティ, 5巻1号, pp.104-105, 1990

20)書評: 別役実『別役実の当世病氣道楽』三省堂, 看護技術, Vol.36(7):55, 1990

21)文献紹介: K・フィンクラー「メキシコの神霊術治療の効果についての考察」(L・ロマヌッチ=ロス編『医療の人類学』海鳴社, 1989, 所収), 医療人類学, 3巻1号, p.4, 1990年4月

22)文献紹介: F・パルジ「イスラエルのイエメン系ユダヤ人社会における精神衛生, 伝統的信仰, および道徳的秩序」(L・ロマヌッチ=ロス編『医療の人類学』海鳴社, 1989, 所収), 医療人類学, 3巻1号, pp.4-5, 1990年4月

23)文献紹介: 渡辺公三「森と器」(波平恵美子編著『病むことの文化』海鳴社, 1990, 所収), 医療人類学, 3巻2号, p.4, 1990年6月

24)「医療人類学者たちによるエイズ研究の動向」(Patricia A. Marshall and Linda A. Bennet eds.: Culture and Behavior in the AIDS Epidemic: Medical Anthropology Quarterly, NS, 4(1), pp.3-144, 1990), メディカル・ヒューマニティ, 5巻2号, pp.104-106, 1990

25)論文紹介: 藤山正二郎「イニシエーションとしての思春期の病い」(波平恵美子編著『病むことの文化』海鳴社, 1990, 所収), 医療人類学, 3巻3号, p.5, 1990年9月

26)論文紹介「民俗的病いへの医療—コスタリカの『ネルビオス』の治療」(Low, Setha M., Medical Practice in Responce to Folk Illness: The diagnosis and treatment of Nervios in Costa Rica. in "Biomedicine Examined"(M.Lock and D.Gordon), 1988, pp.415-438.), 医療人類学, 3巻4号, pp.4-5, 1990年11月

27)「批判的医療人類学はいま?」(Singer, Merril: Reinventing Medical Anthropology; Toward a Critical Anthropology, : Social Science and Medicine, Vol.30, No.2, pp.179-187, 1990) メディカル・ヒューマニティ, 5巻3号, pp.94-95, 1990

28)論文紹介「医師と望ましくない情報の告知」(Taylor, K.M.; Physicians and the disclosure of undesirable information. in "Biomedicine Examined"(M.Lock and D. Gordon eds.), 1988, pp.441-463.), 医療人類学, 3巻5号, pp.4-5, 1991年1月

- 29) 「『告知』を受容した社会における医師のストレス」(Taylor,K.M.; Physicians and the disclosure of undesirable information.in "Biomedicine Examined"(M.Lock and D.Gordon eds.),1988,pp.441-463.) メディカル・ヒューマニティ, 5巻4号, pp.112-114,1991
- 30)文献紹介: 米本昌平『先端医療革命』中央公論社(1988), 医療人類学, 16号(4巻1号)
p.6, 1991年8月
- 31)書評: 大貫恵美子『日本人の病気観—象徴人類学的考察』岩波書店(1985), 民族学研究, 第56巻2号, pp.228-230, 1991年
- 32)書評: J・ニードム『中国のランセット』創元社, 医療人類学, 17号, p.6, 1991年11月
- 33)「遺伝的“予言”: 遅発性疾患への有望性と危険性」(Marie I. Boufford, Genetic Prophecy: Promises and Perils for Late-Onset Diseases, Practicing Anthropology 14(1):6-9, 1992) メディカル・ヒューマニティ, 6巻2号, pp.6-7, 1992年4月
- 34)書評: T・カプチャック, M・クラウチャー『ヒーリング・アーツ』春秋社, からだの科学, 165号,
p.102, 1992年7月
- 35)「フィリピン心霊手術師による病気のマネージメント」(Simon Dein, 1992, The Management of Illness by a Filipino Psychic Surgeon: A Western Physician's Impression, Social Science and Medicine Vol.34, No.4, pp.461-464) メディカル・ヒューマニティ, 22号, pp.10-11, 1993年3月
- 36)書評: カルテの向こう側とこちら側 (書評: 徳永進『カルテの向こうに』新潮社), 看護実践の科学, 1993年5月号, p.104, 1993年5月
- 37)書評: マーク・M・コーエン『健康と文明の人類史』人文書院, 1994年, 看護技術, 41巻4号, p.107, 1995年3月
- 38) 書評: 戈木クレイグヒル滋子『闘いの軌跡—小児がんによる子どもの喪失と母親の成長—』川島書店, 1999年, Quality Nursing Vol.6, No.1, p.90., 文光堂, 2000年1月

- 39) 書評: 花瀨馨也『精霊の子供——コモロ諸島における憑依の民族誌』横浜: 春風社、2005年、『文化人類学』71巻2号、Pp.266-269、2006年9月
- 40) 書評: 飯島渉『マラリアと帝国——東アジアの広域秩序』東京: 東京大学出版会、2005年、『日本歴史』第706号、Pp.125-127、2007年3月
- 41) 書評: 原田正純・花田昌宣編『水俣病研究序説』東京: 藤原書店、2004年、『ごんずい』第102号、Pp.5-7、2007年11月
- 42) 書評: フランツ・ボアズ『プリミティヴアート』(大村敬一訳) 言叢社、2011年、『週刊読書人』第2897号、4面、2011年7月15日
- 43) 書評: 太田好信編『政治的アイデンティティの人類学: 21世紀の権力変容と民主化にむけて』世界思想社、2012年、『文化人類学』第78巻3号、Pp.426-430、2013年12月31日
- 44) 書評: マーガレット・ロック著『アルツハイマーの謎』プリンストン大学出版会、2013年, Lock, Margaret, 2013, The Alzheimer Conundrum: Entanglements of Dementia and Aging. x+310pp., Princeton, New Jersey: Princeton University Press. 『文化人類学』第78巻4号、Pp.525-528、2014年3月31日
- 45) 書評: 中田英樹著『トウモロコシの先住民とコーヒーの国民: 人類学が書きえなかった「未開」社会』東京: 有志舎、2013年、『文化人類学』第79巻1号、Pp.63-66、2014年6月30日
- 46) 書評: 弘末雅士著『人喰いの社会史: カンニバリズムの語りと異文化共存』東京: 山川出版社、2014年、『図書新聞』3196号(2015年2月28日) p.5、2015年2月28日
- 47) Book review: A Disability of the Soul: An Ethnography of Schizophrenia and Mental Illness in Contemporary Japan Author: Karen Nakamura, Social Science Japan Journal 18(2):294-297, Summer 2015, DOI: 10.1093/ssjj/jyv019
- 48) 書評: 共同研究「第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学」グループ編『国際常民文化研究叢書 11: 「民族研究講座」講義録』, 横浜: 神奈川大学日本常民文化研究所、2015年、386頁、非売品. 『文化人類学』第80巻3号、Pp.485-488、2015年12月31日

49) 書評: 浮ヶ谷幸代編著; 阿部年晴[ほか]著『苦悩することの希望: 専門家のサファリングの人類学』協同医書出版社、2014年、『保健医療社会学論集』第26巻2号、Pp.87-88、2016年1月31日

=====
7. 用語解説, 記事, 論説など
=====

- 1) ホンジュラスの政治について, 青年海外協力隊ホンデュラス共和国隊員会編, 8pp, 1987年6月
- 2) 異文化ーラテンアメリカの魅力, ライフサイエンス, 15巻7号, p.31, 1988年7月号
- 3) 医療的多元化 medical pluralism (えちもろじー), 医療人類学, 0号, p.5, 1988年7月
- 4) Medicalization [医療化] (えちもろじー), 医療人類学, 1巻1号, p.3, 1988年9月 (山本亨との共著)
- 5) Culture-Bound Syndrome [文化結合症候群] (えちもろじー), 医療人類学, 1巻1号, p.3, 1988年9月 (斎藤明彦との共著)
- 6) 新しい医療民族誌をめざして, 医療人類学, 1巻1号, p.4, 1988年9月
- 7) オーベンとネーベン (えちもろじー), 医療人類学, 1巻2号, p.3, 1988年11月
- 8) 文化相対主義 [cultural relativism] (えちもろじー), 医療人類学, 1巻2号, p.3, 1988年11月
- 9) 身体化 (えちもろじー), 医療人類学, 2巻2号, p.3, 1989年3月
- 10) アーサー・クラインマン (研究解説), 医療人類学, 2巻2号, p.8, 1989年3月
- 11) 実践的身体論 (「潮流センサー」), 朝日新聞, 夕刊 (関西版) 9面, 1989年3月10日

- 12)医療人類学 (現代看護を理解する 100 の用語), 看護技術, 35 巻 6 号, p.12, 1989 年 4 月
- 13)シャーマン (えちもろじー), 医療人類学, 2 巻 3 号, p.3, 1989 年 5 月
- 14)文献資料: 戦前日本の医療人類学的研究, 医療人類学, 2 巻 3 号, p.9, 1989 年 5 月
- 15)死を忘れることなかれ: 脳死-新しい「死」の定義 (文化欄), 毎日新聞, 夕刊 (全国 版) 8 面, 1989 年 9 月 4 日
- 16)邪視 (えちもろじー), 医療人類学, 2 巻 4 号, p.3, 1989
- 17)東洋医学と医療人類学: ひとつの提言, 東洋医学, No.84, pp.13-14, 1989 年 10 月
- 18)マーガレット・ロック (研究者紹介), 医療人類学, 2 巻 5 号, p.2, 1989 年 11 月
- 19)学会レポート: 人類学・民族学連合大会, 医療人類学, 2 巻 5 号, p.8, 1989 年 11 月
- 20)「移植」推進派と反対派が激突-公開討論会「移植と脳死」に参加して, モダンメディスン 1990 年 2 月号, pp.100-101
- 21)病院における民族誌の可能性-シンポジウム「病院の民族誌」を企画して, 医療人類学 2 巻 6 号, pp.6-7, 1990 年 2 月
- 22)中米ホンジュラス農村の医療 (グラビア記事), モダンメディスン, 1990 年 4 月号, pp.68-73
- 23)社会生物学論争 (えちもろじー), 医療人類学, 3 巻 1 号, p.3, 1990 年 4 月
- 24)脳が死ぬこと (脳死と移植をめぐる-一心の問題として(1)), 東京新聞 14 面
1990 年 5 月 3 日
- 25)臓器移植という思想 (脳死と移植をめぐる-一心の問題として(2)), 東京新聞 14 面,
1990 年 5 月 10 日
- 26)あなたの臓器はだれのもの? (脳死と移植をめぐる-一心の問題として(3)), 東京新

聞10面, 1990年5月17日

27)技術はだれのために? (脳死と移植をめぐって—心の問題として(4)), 東京新聞16面,
1990年5月24日

28)ドナーカードはお持ちですか? (脳死と移植をめぐって—心の問題として(5)),
東京新聞10面, 1990年5月31日

29)出産(生活史小事典), 週刊百科「世界の歴史」, 第79号, p.510-512, 朝日新聞社, 1990
年6月

30)世界保健機関(えちもろじー), 医療人類学, 3巻2号, p.3, 1990年6月

31)民族誌(えちもろじー), 医療人類学, 3巻2号, p.3, 1990年6月

32)特集座談会;現代科学は遂に東洋医学と同じ場に立った(西山賢一, 三浦於菟との鼎談)
東洋医学, 18巻3号, pp.17-45, 1990年6月

33)疫病神?, 治癒神?, (健康フォークロア—生活のなかの医療観(日)), グリーンライフ,
No.91, pp.62-63, 1990年初冬号, 神戸新聞出版局

34)厄年?, 役年?, (健康フォークロア—生活のなかの医療観(月)), グリーンライフ,
No.92, pp.64-65, 1991年冬号

35)ステイグマ(えちもろじー), 医療人類学, 3巻5号, p.3, 1991年1月

36)ご利益信仰, (健康フォークロア—生活のなかの医療観(火)), グリーンライフ,
No.93, pp.64-65, 1991年春号

37)カニバリズム(えちもろじー), 医療人類学, 3巻6号, p.3, 1991年3月

38)純粹, 甲子園学事始(こうしえんにみるじんるいがく)連載(8回のうち3回目)
毎日新聞(夕刊), 7面, 毎日新聞大阪本社, 1991年3月29日

39)観客, 甲子園学事始(こうしえんにみるじんるいがく)連載(8回のうち5回目)
毎日新聞(夕刊), 3面, 毎日新聞大阪本社, 1991年4月1日

- 40) 主役, 甲子園学事始 (こうしえんにみるじんるいがく) 連載 (8回のうち8回目)
毎日新聞 (夕刊), 3面, 毎日新聞大阪本社, 1991年4月4日
- 41) 甲子園学事始・座談会 (永渕康之・楊海英・ジェニファ・ビアとの座談), 毎日新聞 (夕刊) 3面, 毎日新聞大阪本社, 1991年5月10日
- 42) 願かけ・断ちもの・辛抱, (健康フォークロア—生活のなかの医療観(水)), グリーンライフ, No.94, pp.62-63, 1991年
- 43) 吉と凶 (健康フォークロア—生活のなかの医療観(木)), グリーンライフ, No.95, pp.56-57, 1991年
- 44) 研究者部会会議録 (座談会), 『花の万博総合研究会報告書』(花の万博総合研究会企画), エー・エー・ピー, pp.174-211, 1991年
- 45) 自己と他者 (えちもろじー) 医療人類学, 16号 (4巻1号), p.3, 1991年8月
- 46) Q & A 「呪術はほんとうに効果があるか」, 月刊みんぱく (千里文化財団), p.22, 1991年10月
- 47) 効く? 効かない?, (健康フォークロア—生活のなかの医療観(金)), グリーンライフ, No.96, pp.56-57, 1991年
- 48) アジア医学の可能性, 医療人類学, 17号, p.8, 1991年11月
- 49) レトロウイルス (えちもろじー), 医療人類学, 18号, p.3, 1991年12月
- 50) 拡大研究会報告, 医療人類学, 18号, p.8, 1991年12月
- 51) みえない関係, (いのちの民族学1), 看護実践の科学, 1992年1月号, pp.58-59, 1992年1月
- 52) 水の洗礼, (いのちの民族学2), 看護実践の科学, 1992年2月号, pp.62-63, 1992年2月

- 53) インディアンの教訓, (いのちの民族学 3), 看護実践の科学, 1992年3月号, pp.62-63, 1992年3月
- 54) シャーマニズムの世界, 地理・地図資料, 1992年3月号, p.11, 1992年3月
- 55) ロイヤル・タッチ (いのちの民族学 4), 看護実践の科学, 1992年4月号, pp.56-57, 1992年4月
- 56) 苦悩体験の理解 (いのちの民族学 5), 看護実践の科学, 1992年5月号, pp.54-55, 1992年5月
- 57) 中絶 (えちもろじー) [山本亨との共著], 医療人類学, 19号, p.3, 1992年5月
- 58) 擬娩 (えちもろじー), 医療人類学, 19号, p.3, 1992年5月
- 59) 癌告知の位相 (いのちの民族学 6), 看護実践の科学, 1992年6月号, pp.52-53, 1992年6月
- 60) 「心霊手術」を語ることの難しさ, 日本保健医療行動科学会近畿支部ニュースレター, 1992年6月30日, 日本保健医療行動科学会近畿支部事務局 (天理大学)
- 61) 解剖室という舞台 (いのちの民族学 7), 看護実践の科学, 1992年7月号, pp.50-51, 1992年7月
- 62) 下痢と治療師 (いのちの民族学 8), 看護実践の科学, 1992年8月号, pp.54-55, 1992年8月
- 63) 中央アメリカ・ホンジュラス共和国, アドバンス (東日本学園大学広報誌), No.65, 3面, 1992年8月
- 64) 行者と患者 (いのちの民族学 9), 看護実践の科学, 1992年9月号, pp.54-55, 1992年9月
- 65) 文化の文脈における病気と治療, 北海道新聞, 1992年9月3日 (夕刊) 4面文化欄
- 66) もっと怖い話を… (いのちの民族学 10), 看護実践の科学, 1992年10月号, pp.52-53,

1992年10月

67) 名医の幽霊 (いのちの民族学 11), 看護実践の科学, 1992年11月号, pp.58-59,
1992年11月

68) 医療におけるシリアスネス(真面目さ)について, 新医療, 1992年11月号 (No.215),
pp.42-44, 1992年11月

69) 心霊手術, 医療人類学, 20号, p.3, 1992年11月

70) 国際医療協力と文化人類学, 医療人類学, 20号, p.6, 1992年11月

71) フィールドからの手紙 (いのちの民族学 12), 看護実践の科学, 1992年12月号, pp.54
-55, 1992年12月

72) 北海道支部発足の経緯と活動報告, 日本保健医療行動科学会年報, Vol.8, pp.100-103,
1993年6月

73) コラム: 「世界が狭い」って何だろう?, クリニカルスタディ, 1993年7月号, p.69,
1993年7月

74) 北海道支部の活動紹介 (支部の素顔: 連載第3回), 日本保健医療行動科学会ニューズレ
ター, 第21号, p.8, 1993年7月

75) 「脳死移植」への観測気球——見え隠れする移植の論理 (九大肝移植を考える: 下),
琉球新報, 文化欄, 1993年11月12日

76) 「脳死移植」への観測気球——見え隠れする移植の論理 (九大肝移植を考える: 下),
京都新聞, 文化欄, 1993年11月16日

77) 「脳死移植」への観測気球——見え隠れする移植の論理 (九大肝移植を考える: 下),
デーリー東北, 生活欄, 1993年11月21日

78) 「脳死移植」への観測気球——見え隠れする移植の論理 (九大肝移植を考える: 下),
茨城新聞, 健康欄, 1993年11月21日

- 79) 「脳死移植」への観測気球——見え隠れする移植の論理（九大肝移植を考える：下）, 上毛新聞, 家庭欄, 1993年11月29日
- 80) Q & A（遺跡観光に関する質問に答えて）『月刊みんぱく』1995年3月号, p.22, 1995年3月
- 81) なぜなぜ質問箱（「世界には、ぼくとちがった人たちが大勢います。なぜ人間は肌や目の色、かみの毛がちがうのでしょうか。」に答えて）, 熊本日日新聞, 1995年4月30日
- 82) 健康=つれづれ草 [春], 『さわやか』1995年春号, 1995年4月
- 83) 健康=つれづれ草 [夏], 『さわやか』1995年夏号, 1995年7月
- 84) キャップをかぶればあなたは……「ナース」——象徴としての衣装, 『看護学生』, Vol.43.No.6, pp.42-44., 1995年9月
- 85) 健康=つれづれ草 [秋], 『さわやか』1995年秋号, p.23, 1995年10月
- 86) 快楽としての医療——「医療快楽論」聞き書き, 『ぐびろが丘』（長崎大学医学部学生新聞）, 第7号, pp.12-15, 1995年10月
- 87) 健康=つれづれ草 [冬], 『さわやか』1996年冬号, p.23, 1995年10月
- 88) 健康の概念と医療人類学の再想像, 『医療人類学』, 第21号, p.1, 1996年7月
- 89) 「病気」とメディア, 『中央公論』1996年9月号, pp.132-135, 1996年8月
- 90) 「健康」の発明——医療人類学の冒険その1（インタビュー記事）, 『からだからの→合図』第5巻3号（通巻24号）, pp.16-19, 1996年10月
- 91) 活力あるわが文学部に來たれ!, 『熊本大学』（'98大学入試シリーズ）, pp.8-9, 教学社, 1997年11月
- 91) グアテマラの独立記念日, 『熊本大学学報』, 第556号, 表紙写真, 裏表紙写真解説, 平成10（1998）年11月

- 92) ローカル・グローバル・コネクション, 『熊本大学学報』, 第 559 号, 表紙写真, 裏表紙写真解説, 平成 11 (1999) 年 2 月
- 93) 癒しは医療が取り組むべき道か?, 『週刊医学界新聞』, 第 2369 号, p.15, 2000 年 1 月
- 94) グアテマラ—和平合意後のゆくえ—(総括と報告 1), 『日本ラテンアメリカ学会会報』, Pp.14-15, No.75, 2001 年 7 月
- 95) 文学部地域科学科文化表象学教室、『熊大だより』2001 年 11 月
- 96) 「コスタリカ共和国カウイータ国立公園区に隣接する林の小道にて」写真と文、『科学』72(7):689. 2002 年 7 月
- 97) 「独断と偏見で往くコスタリカ・エコツアー」『科学』72(7):745. 2002 年 7 月
- 98) 「何を学ぶか (文化学分野)」『全国大学学部・学科案内号』蛍雪時代 2003 年 4 月臨時増刊号、Pp.242-244. 2003 年 4 月
- 99) 「パワフルな学生を求め！」(大学からのメッセージ)、『熊本大学 文系』2004 年度版、京都：教学社、p.5、2003 年 10 月
- 100) 「保健医療の社会的構築に関する研究」(田口宏昭、野村亜由美、林田康子、嶋澤恭子との共著)、『熊本文化人類学』、Pp.35-36、2004 年 1 月
- 101) 「痛みと文化人類学」『武田薬報』2004, No.1 (通巻 436 号)、Pp.7-8、2004 年 2 月
- 102) 「保健医療の社会的構築に関する研究」(田口宏昭、野村亜由美、林田康子、嶋澤恭子との共著)、『熊本大学社会文化研究』第 2 号、Pp.328-329、2004 年 2 月
- 103) 「何を学ぶか (文化学分野)」『全国大学学部・学科案内号』蛍雪時代 2004 年 4 月臨時増刊号、Pp.224-226. 2004 年 4 月
- 104) 「文化人類学：多様な人間の生き方や文化について学ぶ」『リクルート進学ブック：学校選びスタート号 2004』、p.81、2004 年 4 月
- 105) 「私の (マイ) 音読ブーム」『日本語学』第 23 卷 13 号、pp.4-5、2004 年 10 月

- 106) 「ストレス理論の使われ方：その医学的概念の歴史的社会的構築」(田口宏昭、林田康子、嶋澤恭子、下地明友との共著)『熊本大学社会文化研究』第3号
- 107) 「自分と他人の共通点と相違点が見える、それこそが究極の人間関係ですね」(コラム：モノレール・ピープル)『大阪モノレール・プレス』8月号、2面、2005年7月
- 108) 「コミュニケーション研究って何？」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第1話)『大阪モノレール・プレス』9月号、3面、2005年9月
- 109) 「〈生命のコミュニケーション〉としての医療人類学」『365°』No.2, pp.4-9、NTTアド、2005年9月
- 110) 「健康のためにも、節度ある楽しい飲酒を」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第2話)『大阪モノレール・プレス』9月号、3面、2005年10月
- 111) 「他人に誤解されたら、演技方法に工夫を」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第3話)『大阪モノレール・プレス』11月号、3面、2005年11月
- 112) 「ペットをよく観察し、一定の距離を保つのがコツ」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第4話)『大阪モノレール・プレス』12月号、3面、2005年12月
- 113) 「上手な贈り物は人間関係のスキルアップに」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第5話)『大阪モノレール・プレス』2月号、3面、2006年2月
- 114) 「ストレスは今や、年中無休？」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第6話)『大阪モノレール・プレス』3月号、3面、2006年3月
- 115) 「春の新生活はストレスの宝庫！」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第7話)『大阪モノレール・プレス』4月号、3面、2006年4月
- 116) 「火喰鳥に学ぶ新しい生活様式」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第8話)『大阪モノレール・プレス』5月号、3面、2006年5月
- 117) 「私たちの足もとから始まる国際化」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第9話)『大阪モノレール・プレス』6月号、3面、2006年6月

- 118) 「失敗上手は、コミュニケーション上手？」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第10話)『大阪モノレール・プレス』7月号、3面、2006年7月
- 119) 「ガチンコ勝負だけがコミュニケーションではない！」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第11話)『大阪モノレール・プレス』8月号、3面、2006年8月
- 120) 「会うは別れの…いえいえ別れは新たな出会いの始まりです」(池田光穂先生のココロの栄養学道場：第12話)『大阪モノレール・プレス』9月号、3面、2006年9月
- 121) 「参加の概念」『Communication-Design 2007』p.221、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、2007年3月
- 122) 「メティス(策略知)」[共著：西川勝・池田光穂]『Communication-Design 2007』p.225、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、2007年3月
- 123) 「フィールドワーク大好きになれ！」看護人類学事始め第1回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.1., Pp.90-91, 2008年1月
- 124) 「看護はスピリチュアルな行為なのか？：ナイチンゲールとスピリチュアリティ」看護人類学事始め第2回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.2., Pp.76-77, 2008年2月
- 125) 「ケアという贈与」看護人類学事始め第3回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.3., Pp.122-123, 2008年3月
- 126) 「アイデンティティから感情労働へ」看護人類学事始め第4回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.4., Pp.132-133, 2008年4月
- 127) 「痛みがわかるとは？：超難問を考える」看護人類学事始め第5回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.6., Pp.146-147, 2008年5月
- 128) 「文化の翻訳者のお仕事【前編】：多文化共生社会に取り残される日本」看護人類学事始め第6回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.7., Pp.138-139, 2008年6月
- 129) 「文化の翻訳者のお仕事【後編】：五感を動員することの大切さ」看護人類学事始め第7回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.8., Pp.112-123, 2008年7月

- 130) 「現場力ってなに? : その問いが生まれる背景を考える」看護人類学事始め第8回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.9., Pp.130-131, 2008年8月
- 131) 「社会的パワーとしての現場力: 人は協働することでパワーを増す」看護人類学事始め第9回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.10., Pp.134-135, 2008年9月
- 132) 「看護理論の学び直し: あなどれないぞっ! 看護理論史の意義」看護人類学事始め第10回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.11., Pp.146-147, 2008年10月
- 133) 「よい臨床コミュニケーションへの道 (前編): ハインドの原則」看護人類学事始め第11回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.13., Pp.146-147, 2008年11月
- 134) 「よい臨床コミュニケーションへの道 (後編): 遠回りすることの意味」看護人類学事始め第12回、『月刊ナーシング』Vol.28, No.14., Pp.126-127, 2008年11月
- 135) 「「くつろぎ」からワークライフバランスを考える」看護人類学事始め第13回『月刊ナーシング』Vol.29, No.1., Pp.96-97, 2009年1月
- 136) 「反省的実践」『Communication-Design 2』p.193、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、2009年3月
- 137) 「日本社会の課題解決における海外ボランティアの未来: JOCVの経験を市民社会へ」『日本社会の課題解決における海外ボランティア活動の有効性の検証』(青年海外協力協会・受託調査研究報告書, 2007-2009年) Pp.174-224、2009年6月
- 138) 「中川米造回顧著作展に寄せる」『中川米造回顧著作展』滋賀医科大学附属図書館編、Pp.13-14, 滋賀医科大学図書館、2009年10月30日
- 139) 「医療人類学が問いかけるもの: 社会現象としての医療」『地球学の世紀』170:130-131, 2010年9月
- 140) 「感情労働」『Communication-Design 4』p.91、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、2011年3月
- 141) 「状況的学習と最近接発達領域」『Communication-Design 4』p.92、大阪大学コミュ

ニケーションデザイン・センター、2011 年 3 月

142) 「アンドロイドは現場力を発揮することができるか?」『Communication-Design 5』
p.86、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、2011 年 9 月

143) 「シンポジウム「知の現場力とはなにか」(講演と座談会の記録: 共著)『臨床知と徴候
知』後藤正英・吉岡剛彦編、Pp.296-339、作品社、2012 年 3 月

144) 「「害虫」という呼称の危険性について」『月刊みんぱく』第 39 巻 3 号 (通巻 450 号)、
Pp.8-9、国立民族学博物館、2015 年 3 月

145) [民族文化 DAY 対談] リベラルアーツから「モンゴル」を語る (池田光穂+片山博文
による W 講演と対談記録)、Pp.1-30、2015 年 3 月 25 日

146) 「CSCD は「阪大生が阪大生になる場所」『CSCD 2005-2014 BOOK』Pp.16-17、大阪
大学コミュニケーションデザイン・センター、32pp.、2015 年 3 月 31 日

147) 「学問紹介: 文化人類学」『仕事・学問 BOOK: スタディサプリ進路』金剛寺千鶴子編、
p.52、リクルート、2017 年 3 月

=====

8. 研究費取得

=====

1) 「中米における僻地医療の事例研究」でトヨタ財団 1986 年度研究助成 (86-I-012) 授与。

2) 「中央アメリカの人々の仕事・生きがい・ライフスタイル」で第 3 回生命科学振興会研究
助成論文 (1989 年度) による研究助成金賞与。

3) 文部省科学研究費補助金奨励研究(A) 「ラテンアメリカ地域を対象とする医療人類学の基
礎的研究」交付 (平成元・2 年度: 1989-1990 年度)

4) 東日本学園大学・平成 4 (1992) 年度特別研究費補助金交付; 研究課目「アルマアタ宣言
以降のプライマリヘルスケアの動向に関する基礎研究——とくに世界の開発途上地域にお
ける受容について」(個人研究)

- 5)平成4(1992)年度北海道科学研究費補助金交付。研究課目「『北海道の離婚』についての言説の社会的構成——社会的な還元をめざした文化人類学的調査研究」(共同研究)
(研究代表者:池田光穂, 共同研究者:松岡悦子, 太田好信)
- 6)平成5・6(1993-1994)年度文部省科学研究費補助金(国際学術)「カリブ海地域におけるエコ・ツーリズムの比較研究」(研究代表者:石森秀三) 研究分担者
- 7)平成8・9・10(1996-1998)年度文部省科学研究費補助金(国際学術)「グアテマラ観光地における文化創造と階級・人種・性差意識変化の民族誌」(研究代表者:太田好信) 研究分担者
- 8)平成8(1996)年度文部省在外研究員(研究開発動向調査、決定番号8-研-179):カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、コスタリカ共和国熱帯研究機関訪問研究員(派遣時期:平成9(1997)年1月15日~同年3月14日)
- 9)平成9・10・11(1997-1999)年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))「高度メディア社会における社会倫理の実証的研究」(研究代表者:船木亨) 研究分担者
- 10)平成9(1997)年度明治生命厚生事業団健康文化研究助成「日本の健康文化に関する実証的研究」研究代表者
- 11)平成10・11・12(1998-2000)年度文部省科学研究費補助金(国際学術)「グローバル化によるグアテマラ国家ナショナリズムと汎マヤ・エスニシティの形成」(研究代表者:太田好信) 研究分担者
- 12)平成10・11(1998-1999)年度文部省科学研究費補助金(国際学術)「都市化環境における実践コミュニティの人類学的研究」(研究代表者:田辺繁治) 研究分担者
- 13)吉田秀雄記念事業財団平成10(1998)年度研究助成「日本の広告における健康言説の構築分析」研究代表者
- 14)平成11・12・13(1999-2001)年度文部省(現:文部科学省)科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))「病気と健康の日常的概念に関する実証的研究」研究代表者
- 15)平成13・14・15(2001-2003)年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))「中南米の民主国家建設における先住民文化運動の役割」(研究代表者:太田好信) 研

究分担者

- 16) 平成 14・15・16 年 (2002-2004) 度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (C))
(1) 「グローバル化する近代医療と民族医学の再検討」 (研究代表者: 奥野克巳) 研究分担者
- 17) 平成 15・16・17・18 (2003-2006) 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) (2) 「価値の多元化状況における保健システムの変貌」 (研究代表者: 池田光穂) 研究代表者
- 18) 平成 15・16・17 (2003-2005) 年度国立国際医療センター・委託事業研究「保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際的研究」 (主任研究者: 中村安秀) 分担研究「医療人類学の立場からみた保健医療協力プロジェクトの持続可能性に関する学際研究」 分担研究者
- 19) 平成 15・16・17 (2003-2005) 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (C))
(2) 「ストレスの社会・文化的規定性とそれへの適応過程に関する研究」 (研究代表者: 田口宏昭) 研究分担者
- 20) 平成 15 (2003) 年熊本大学大学院社会文化科学研究科プロジェクト研究「保健医療の社会的構築」 (研究代表者: 池田光穂) 研究代表者
- 21) 平成 16・17・18・19 (2004-2007) 年度国立民族学博物館共同研究会「グローバル化がもたらす保健システムの変貌」 研究代表者
- 22) 平成 16 (2004) 年熊本大学大学院社会文化科学研究科プロジェクト研究「ストレス理論の使われ方: その医学概念の歴史的社会的構築」 (研究代表者: 池田光穂) 研究代表者
- 23) 平成 16 (2004) 年度国立民族学博物館共同研究会「グローバル化がもたらす保健システムの変貌」 (共同研究会: 33) 研究代表者
- 24) 平成 17・18・19 (2005-2007) 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 海外学術「先住民の文化顕示における土着性の主張と植民国家の変容」 (研究代表者: 太田好信) 研究分担者
- 25) 平成 18・19 (2006-2007) 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (萌芽研究) 「実験室

における社会実践の民族誌学的研究」(研究代表者: 池田光穂)

26) 2008~2011年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B)海外学術)「人間と動物の関係をめぐる比較民族誌研究: コスモロジーと感覚からの接近」(研究代表者: 奥野克巳) 研究分担者

27) 2009~2011年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B)「臨床医工学をめぐるコミュニケーション・モデルの構築に向けて」(研究代表者: 霜田求) 研究分担者

28) 2010~2011年度日本学術振興会科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究「生物多様性概念の社会化の研究: 現代生態学者の科学人類学」(研究代表者: 池田光穂)

29) 2010~2011年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B)海外学術)「中米先住民運動における政治的アイデンティティ: メキシコとグアテマラの比較研究」(研究代表者: 池田光穂)

30) 2011~2012年度日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「終末期医療で看護師が体験する困難—患者の自己決定を支えるためのケアをめざして—」(研究代表者: 松岡秀明) 研究分担者

31) 2011~2013年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B)海外学術)「東南アジア医療福祉にみる看護・介護人材送出実態の実証研究: 対日EPA問題を中心に」(研究代表者: 奥島美夏) 研究分担者

32) 2012~2013年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))「緩和ケアの感覚的経験に関する人類学的研究」(研究代表者: 飯田淳子) 研究分担者

33) 2012~2015年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))「長寿社会における地域参加型認知症トータルケアプログラムの開発と評価」(研究代表者: 渡辺みどり) 研究分担者

34) 2013~2017年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))「津波被災後の高齢者の外傷後成長と認知症に関する学際的研究—老いの成熟を目指して—」(研究代表者: 野村亜由美) 研究分担者

35) 2014~2018年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))「ASEAN 経済統合・

EPA 下の医療保健人材の東アジア域内移動と職場適応の実証研究」(研究代表者:奥島美夏)
研究分担者

36) 2014-2016 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究)「動物学者と動物
の科学民族誌:人類学者の参与観察と協働可能性」(研究代表者:池田光穂) 研究代表者

37) 2015~2017 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究)「ハームリダク
ション時代の依存症ケア:日蘭の文化差異を踏まえた国際比較研究」(研究代表者:徐淑子)
研究分担者

=====

9. 訪問調査地

=====

2017

- National Yang Ming University, Taipei, Taiwan. from 27 to 30 March, 2017. Research
discussion on the comparative study of harm reduction between Taiwan and Japan. with Prof.
Chen Jia-Shin and Dr. Wang Sheng-Chang (Chief Researcher: Sookja SUH).

- Hanoi, Thanh Hoa, and Nam Dinh, Vietnam. from 6 to 10, March, 2017. Medical
anthropological field trip on research grant of "Comparative studies on Inter-regional
mobilization in East Asian countries and adaptive process in situ of the Health workers from
ASEAN countries under the Japanese EPA regimes" (Chief Researcher: Mika OKUSHIMA)

2016

- The Soul DARC, Eulji University Soul and the National Prison and Rehabilitation Center
for penal drug-addicts of Gongju. Soul and Gongju. form 10 to 13, October, 2016. Medical
anthropological survey for comparative studies on harm reduction policy between Korea and
Japan. (Chief Researcher: Sookja SUH).

- Leiden University, Maastricht University and the "DE REGENBOOG GROEP" (Rainbow
group), Leiden, Maastricht and Amsterdam, Holland. from 8 to 24, August, 2016. Medical
anthropological survey for comparative studies on harm reduction policy between Holland
and Japan. (Chief Researcher: Sookja SUH).

- Morogoro, Mikumi, and Dar es Salaam, Tanzania, from 20, February to 2, March 2016. Zoological field trip of collecting shrew mouse and ethnographic survey for field zoologists (Chief Researcher: Mitsuho IKEDA).

2015

- Bangkok City, Krabi City and Kaho Lak City, Thailand. Two weeks in March 2015. Medical anthropological field study on research grant of "Interdisciplinary study of interrelation between post-traumatic resilience and emerging endemic senile dementia after tsunami disaster: Toward a fruitful aging society," (Chief Researcher: Ayumi NOMURA).

2014

- Kuala Lumpur and Taman, Malaysia. 6 days in December 2014. Ethnographic study and interview on anthropology of zoologists.

- Patzucalo and Tzintzuntzuan, Michoacan, Mexico. Two weeks in November 2014. Religious Study of All Saint Day Ritual and Local Aging Care.

- Zhenglan (Xulun Hoh) Banner, China. 10 days in August 2014. Pastoral farming and their cosmology: slaughter method and human-animal relations.

- Princeton and New York, USA. 8 days in March 2014. Attending academic conference and bibliographical research on Medical Anthropology of Alzheimer disease and Aging.

- Bandung, Indonesia. 8 days in February. Medical anthropological field study on research grant of "Empirical Study on International Migration of Health Care Worker in East Asian Countries: Focusing on Economic Partnership Agreement with Japan," (Chief Researcher: Mika OKUSHIMA)

2013

- Mexico City, San Cristobal de Las Casas, Mexico: Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in December, 2013 and January 2014. Political Anthropological Survey on research grant of "Political Identities of Indigenous Movements in Central America: A comparative study of Mexico and Guatemala," (Chief Researcher: Mitsuho IKEDA).

- Mexico City, Mexico, Santo Domingo and Dajabon, Dominican Republic. 32 days in August and September, 2013. Ethnographical research of Japanese immigrant aging society on research grant of "Interdisciplinary study of interrelation between post-traumatic resilience and emerging endemic senile dementia after tsunami disaster: Toward a fruitful aging society," (Chief Researcher: Ayumi NOMURA).

- Ulaanbaatar and Karakorum, Mongol. 10 days in August, 2013. Pastoral farming and their cosmology: slaughter method and human-animal relations.

- Pokhara and Kathmandu, Nepal. 10 days in March, 2013. Ethnographic survey on slaughter method of domestic animals and human-animal relations.

- Yogyakarta, Indonesia 12 days in March, 2013. Ethnographic survey of elderlies in local community setting, on on research grant of "Empirical Study on International Migration of Health Care Worker in East Asian Countries: Focusing on Economic Partnership Agreement with Japan," (Chief Researcher: Mika OKUSHIMA).

2012

- Mexico City, San Cristobal de Las Casas, Mexico: Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in November and December, 2012. Political Anthropological Survey on research grant of "Political Identities of Indigenous Movements in Central America: A comparative study of Mexico and Guatemala," (Chief Researcher: Mitsuho IKEDA).

2011

- Tsuishikari, Hokkaido, Japan. 3 days June, 2011. Attending with Sakhalin Ainu Memorial Service and relating interviews.

2010

- Mexico City, San Cristobal de Las Casas, Mexico: Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in November and December, 2010. Political Anthropological Survey on research grant of "Political Identities of Indigenous Movements in Central America: A comparative study of Mexico and Guatemala," (Chief Researcher: Mitsuho IKEDA).

2009

- Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in December, 2009. Cultural Anthropological Survey on research grant of "A Comparative Ethnographic Study on Relations Between Men and Animals : Approach From Cosmology and Sense,"(Chief Researcher: Katsumi OKUNO).

2008

- Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in December, 2008. Cultural Anthropological Survey on research grant of "A Comparative Ethnographic Study on Relations Between Men and Animals : Approach From Cosmology and Sense,"(Chief Researcher: Katsumi OKUNO).

2007

- Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in December, 2007. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Indigenous Political Activism through Heritage Work and Transformation of Settler Nation," (Chief Researcher: Yohinobu OTA).

2006

- Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in December, 2006. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Indigenous Political Activism through Heritage Work and Transformation of Settler Nation," (Chief Researcher: Yohinobu OTA).

-JK McCathry 博物館、ゴロカ病院 (PNG Institute of Medical Research)、ヘンガノフィー (Henganofi)、オカバ (Okapa) : パプアニューギニア、平成18 (2006) 年3月8日～平成18 (2006) 年3月16日 (9日間) : 基盤研究 (B) 「価値の多元化状況における保健システムの変貌」 (代表者: 池田光穂)

2005

- Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 4 weeks in December, 2005. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Indigenous Political Activism through Heritage Work and Transformation of Settler Nation," (Chief Researcher: Yohinobu OTA).

2004

- Honduras. Two weeks in August, 2004. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Interdisciplinary Studies on Sustainability of International Health Cooperation," (Chief Researcher: Yasuhide NAKAMURA).

2003

- Medan and Yogyakarta, Indonesia. 10 days in August, 2003. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Interdisciplinary Studies on Sustainability of International Health Cooperation," (Chief Researcher: Yasuhide NAKAMURA).

- Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 3 weeks in December, 2003. Cultural Anthropological Survey on research grant of "The Role of Indigenous Peoples in Rebuilding Democratic Nations in Latin America," (Chief Researcher: Yohinobu OTA)

2002

- Minamata, Kumamoto, Japan. One week in August, 2002. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Transformations of health care systems under the multi-dimensional situations of human value," (Chief Researcher: Mitsuho IKEDA).

- Huehuetenango, Comitancillo, Guatemala City, Guatemala. 3 weeks in December, 2002. Cultural Anthropological Survey on research grant of "The Role of Indigenous Peoples in Rebuilding Democratic Nations in Latin America," (Chief Researcher: Yohinobu OTA)

2001

- Huehuetenango, Antigua City, Guatemala City, Guatemala. 3 weeks in August, 2001. Cultural Anthropological Survey on research grant of "The Role of Indigenous Peoples in Rebuilding Democratic Nations in Latin America," (Chief Researcher: Yohinobu OTA)

2000

- Minamata, Kumamoto, Japan. Five days in August, 2000. Cultural Anthropological Survey

on research grant of "Cultural Perspective on Concepts of Health and Illness in Contemporary Societies," (Chief Researcher: Mitsuho IKEDA).

- Todos Santos Cuchumatan, Huehuetenango, Antigua City, Guatemala City, Guatemala. 3 weeks in December, 2000. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Guatemalan Nationalism and Maya Ethnicity under Globalization," (Chief Researcher: Yohinobu OTA).

1999

- Totonicapan, Momostenango, Huehuetenango, Antigua City, Guatemala City, Guatemala. 3 weeks in August, 1999. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Anthropological Study of the Community of Practice in Urbanizing Environments," (Chief Researcher: Shigeharu TANABE).

- Todos Santos Cuchumatan, Huehuetenango, Antigua City, Guatemala City, Guatemala. 3 weeks in December, 1999. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Guatemalan Nationalism and Maya Ethnicity under Globalization," (Chief Researcher: Yohinobu OTA).

1998

- Todos Santos Cuchumatan, Huehuetenango, Antigua City, Guatemala City, Guatemala. 3 weeks in August, 1998. Cultural Anthropological Survey on research grant of "Guatemalan Nationalism and Maya Ethnicity under Globalization," (Chief Researcher: Yohinobu OTA).

1997

- Berkeley, California, USA and La Selva, San Jose, Costa Rica. from January 15 to March 14, 1997, Cultural Anthropological Survey of Ecotourism on research grant, Ministry of Education, Government of Japan, Advanced Research Trend Survey, Short-term foreign residency research program (8-Ken-179).

1996

- Anthropological field study on Touristic development and folk craft in Northwestern Guatemala, assisted by research grant of Ministry of Education, Government of Japan, "Contested Process of Cultural Reproduction in Guatemala" (Director: Yoshinobu Ota),

September - October 1996.

1989

- Anthropological expedition on Ecotourism in Central America and Caribbean area, assisted by research grant of Ministry of Education, Government of Japan, "Comparative Study of Eco-tourism in the Caribbean Sea Area" (Director: Shuzo Ishimori), February - March and June - September 1990,
December 1989 - January 1990.

1987-1988

- Anthropological field study on Ethnomedicine and Public Health in Honduras and Guatemala, assisted by research grant of Toyota Foundation, October 1987 - February 1988)

1985-1987

- Epidemiological and Anthropological field study in Department of Copan , Honduras, assisted by Ministry of Public Health, Government of Honduras, and Office of Japanese Overseas Cooperative Volunteers (JOCV), May 1985 - March 1987.

1982-84

- Anthropological field study on Mountain Folk Religion between Ikoma Mountain and Urban Osaka, assisted by Society for Sociology of Religion, 1982 - 1984.

1979-1980

- Survey of Feeding Ecology of Japanese Macaques (*Macaca fuscata*) in Koshima-Island, Miyazaki Prefecture, southern Japan.

=====

10. 担当授業

=====

2017

- ・「訪問術A」大阪大学 CO デザイン科目 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「訪問術B」大阪大学 CO デザイン科目 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「協働術A」大阪大学 CO デザイン科目 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「ヘルスコミュニケーション」大阪大学・薬学部・薬学研究科 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「情報メディア問題入門」國學院大學経済学部 (全学年対象) 2 単位

2016

- ・「医療人類学」大阪大学大学院人間科学研究科 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「臨床コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「ヒューマンコミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「認知症コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「《支縁》コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位

2015

- ・「セーフティネット論」大阪大学大学院人間科学研究科 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「民族誌学」大阪大学大学院人間科学研究科 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「医療人類学」大阪大学大学院人間科学研究科 (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「臨床コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「ヒューマンコミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「認知症コミュニケーションA」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「認知症コミュニケーションB」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「《支縁》コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「身体コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (全学部・全研究科対象) 2 単位
- ・「社会学特別講座1」立教大学大学院社会学研究科 (社会学研究科対象) 2 単位
- ・「臨床社会特論D」関西学院大学社会学部 (全学部対象) 2 単位

2014

- ・「セーフティネット論」大阪大学大学院人間科学研究科（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ヒューマンコミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「医療人類学」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「セーフティネット論」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「認知症コミュニケーションA」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「認知症コミュニケーションB」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「身体コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床社会特論D」関西学院大学社会学部（全学部対象）2単位

2013

- ・「政治経済の人類学」大阪大学大学院人間科学研究科（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ヒューマンコミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「医療人類学」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「セーフティネット論」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「認知症コミュニケーションA」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「認知症コミュニケーションB」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「身体コミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床社会特論D」関西学院大学社会学部（全学部対象）2単位

- ・「文化人類学」東京医科大学（看護学科対象）2単位

2012

- ・「臨床コミュニケーション（1）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション（2）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「研究倫理」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「グローバル共生社会論」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ディスコミュニケーションの理論と実践」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「現場力と実践知」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位

2011

- ・「臨床コミュニケーション（1）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション（2）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「研究倫理」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「グローバル共生社会論」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ディスコミュニケーションの理論と実践」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「現場力と実践知」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位

2010

- ・「臨床コミュニケーション（1）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション（2）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「研究倫理」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）

2単位

- ・「グローバル共生社会論」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ディスコミュニケーションの理論と実践」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「現場力と実践知」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「暴力について考える」大阪大学大学院人間科学研究科（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「看護技術科学特論」大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻（保健学専攻対象）2単位
- ・「医療人類学」高知大学医学部（医進課程対象）2単位

2009

- ・「臨床コミュニケーション（1）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション（2）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「グローバル共生社会論」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ディスコミュニケーションの理論と実践」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「現場力と実践知」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「民族誌学／民族誌」大阪大学大学院人間科学研究科（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「医療人類学」高知大学医学部（医進課程対象）2単位
- ・「文化人類学」近大姫路大学看護学部（看護学部対象）2単位
- ・「国際保健入門」近大姫路大学看護学部（看護学部対象）2単位

2008

- ・「臨床コミュニケーション（1）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション（2）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「グローバル共生社会論」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ディスコミュニケーションの理論と実践」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位

- ・「現場力と実践知」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「異文化理解／異文化理解特論」大阪大学大学院人間科学研究科（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「医歯学序説」大阪大学医学部・歯学部（医進課程対象）2単位
- ・「医療人類学」高知大学医学部（医進課程対象）2単位
- ・「文化人類学」近大姫路大学看護学部（看護学部対象）2単位
- ・「社会福祉学特殊研究指導Ⅴ」熊本学園大大学院社会福祉学研究科（研究科対象）2単位

2007

- ・「臨床コミュニケーション（1）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション（2）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ディスコミュニケーションの理論と実践」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「現場力と実践知」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「比較文化学／比較文化学特論」大阪大学大学院人間科学研究科（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「文化人類学」高知大学医学部（医進課程対象）2単位
- ・「文化人類学」近大姫路大学看護学部（看護学部対象）2単位

2006

- ・「臨床コミュニケーション（第一学期）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「臨床コミュニケーション（第二学期）」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「ディスコミュニケーションの理論と実践」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「現場力とコミュニケーション」大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「政治経済の人類学」大阪大学大学院人間科学研究科（全学部・全研究科対象）2単位
- ・「文化人類学」高知大学医学部（医進課程対象）2単位
- ・「国際関係論」高知大学医学部（医進課程対象）2単位

2005

- ・「健康と病の人文学」熊本大学文学部学際科目（文学部対象）2単位
- ・基礎セミナー「靖国神社観光論」（教養課程対象）2単位
- ・「医療文化論」熊本大学大学院文学研究科（研究科対象）2単位
- ・「文化政策論」熊本大学大学院社会文化科学研究科（研究科対象）2単位
- ・「医療文化論」熊本大学大学院社会文化科学研究科（研究科対象）2単位
- ・「文化表象学調査実習1」熊本大学文学部（文学部対象）2単位

2004 以前のもの《現在調査中》